新婦人協會

機關雜誌

女性同盟

11

八月號

□山川女史の新婦人協會と赤瀾會を讀みて……奥むめお
□ひしがれた女性と語る……中條百合子
□感想の斷片……關口冬子
□眞の自由について……中井愛子
□變化しつゝある女性の地位……ハヴアロック・エリス
□軍備縮少問題……らいてう
□人格價値の問題……宮崎龍介
□獨言……長谷川初音
□解放の輪廓……佐々木伊都子
□間庭（小說）……山田美都子



御旅行と三越

……御旅行の品は三越の品

増築落成を致しました三越は日本一の便利な店となりました、………………………

避暑旅行に海濱に行かるるにしても、温泉に行かるるにしても、山岳旅行をさるるにしても………

旅行の必要品は三越に一つ殘らず取揃へて御座います

◆◆八月定休日◆十日◆二十五日◆一日は棚卸て休業◆◆

東京 越 三越呉服店

肺病患者に告ぐ

絶望より光明へ

「薬は宜しく信用ある大製薬會社の製品を選べ」こは識者の均しく提唱する所也。ホシアンチツベルケンは東洋一の星製薬株式會社の製造に係るものにして、今日まで肺病及び肋膜患者にして絶望より光明へ向ひたるもの數知れず轉地靜養の地にある人々よ召せ、自宅保養の人々よ服め。

定價　小、壹圓五拾錢　中、三圓　大、五圓五拾錢

ホシアンチツベルケン

◆東京京橋◆

星製薬株式會社

女性同盟

第十一號目次

山川女史の新婦人協會と赤瀾會を讀みて……奥むめお……三
ひしがれた女性と語る……中條百合子……九
感想の斷片……關口冬子……一六
眞の自由について……中井愛子……二〇
變化しつゝある女性の地位……ハヴアロック●エリス……二四
時事批判
軍備縮少問題……らいてう……二六
小兒權の復活を要求す……故遠藤清……三三
青草……高安やす子……三八
□海内婦人……四〇

□海外婦人界……四一
□投書欄……四二
人格價値の問題……宮崎龍介……四四
解放の輪廓……佐々木伊都子……四六
獨言（感想）……長谷川初音……五五
小品と斷想（感想）……小室とし子……五七
間庭（小説）……山田美都子……六一
▲會務部通信……六六
▲協會日誌……七三
▲會員名簿……七六
▲編輯室より……七九

代理部新設

今回協會で代理部を新設して、書籍、日用品、雜貨等をなるべく安價に取次販賣をいたす事に畧決定しました。

目下準備中ですからいづれ次號で委しく御報告出來る事ご存じます。

新婦人協會

女性同盟



第十一號

新婦人協會綱領

一、婦人の能力を自由に發達せしめるため男女の機會均等を主張すること。

一、男女の價値同等觀の上に立ちて其の差別を認め協力を主張すること。

一、家庭の社會的意義を闡明すること。

一、婦人、母、子供の權利を擁護し、彼等の利益の增進を計ると共に之に反する一切を排除すること。

新婦人協會宣言

婦人も亦婦人全體のために、その正しき義務と權利の遂行のために團結すべき時が來ました。今こそ婦人は婦人自身の教養、その自我の充實を期するのみならず、相互の堅き團結の力によつて、その社會的地位の向上改善を計り、婦人としての、母としての權利の獲得のため、男子と協力して戰後の社會改造の實際運動に參加すべき時であります。若しこの時に於て、婦人が立たなければ、當來の社會も亦婦人を除外した男子中心のものとなるに相違ありません。そしてそこに世界、人類の禍の大半が置かれるのだと思ひます。

私共は日本婦人がいつまで無智無能であるとは信じません。否、既に我が婦人界は今日見るべき學識あり、能力ある幾人かの新婦人を有つてゐます。しかも私共は是等の現はれたる婦人以外に、なほ多くの更に識見高き、思慮あり、實力ある隱れたる婦人のあることを疑ひません。然るに是等の婦人の力が一つとして社會的に若しくは社會的勢力となつて活動して來ないのは何故でありませう 全く婦人相互の間に何の聯絡もなく、各自孤立の狀態にあつて、少しもその力を婦人共同の目的のために一つにしやうといふやうな努力もなく、又そのための機關もないからではないでせうか。私共はさう信ずるものであります。

是れ私共が微力を顧ず、同志を糾合し、茲に婦人の團體的活動の一機關として「新婦人協會」を組織し、婦人相互の團結を計り、堅忍持久の精神を以て、婦人擁護のため、その進步向上のため、或は利益の增進、權利の獲得のため努力し、その目的を遂せんことを期する所以であります。

大正九年三月二十八日

山川女史の新婦人協會と赤爛會を讀みて

奥むめお

太陽七月號所載の山川菊榮女史の「新婦人協會と赤爛會」は、可なり思ひ切つて新婦人協會——と云ふよりは平塚氏個人と云つた方が妥當かも知れないが——を俎玉にあげてをります。玆に揭げる一文は、私が同誌の編輯者の求めに應じて書き送つた雜感の轉載であります。無責任な人の口から傳へられる噂か更に噂を生んで、世上いろ〳〵に取沙汰される協會の主張及び立場を明かにするものとしては、餘りに云ひ足りない恨みがありますが、私としては徒らに喋々辯じ立てゝ、巧みな効能書を作製するよりも、事實に就いて見て下さい、といふ一語を女史を初めとして全ての人々に送りたいと思つてをります。

最近勞働運動は全く本質化し白熱して、殊に神戸に於ける川崎三菱兩造船所の勞働爭議は日を經るに從つて益々險惡の度を加へつゝあると云ふいろんな報告を耳にしますが、それに直接何の關はりを持たない私ですら、朝夕の新聞を見るにも氣持が緊張して、一字一句の上に釘づけされるやうな感じがします。今日は、十四日未明に姫路第三十九聯隊の一箇大隊が出動して、兩工場を圍繞せる數百名の警官隊と協力して特別警備の任に就いたといふ記事を手にしました。そして私は悲しみ、憤りつゝ徒らに自分勝手な空想を逞うするばかりであります。

飜つてわが婦人界の現狀はどうでせう。ひとり無產者婦人と云はず有產婦人も智識階級も無智識階級も通して特に婦人運動の現狀は。

私はわれ〳〵婦人の内に漲る婦人自身の力を信じます。殊に最近その力が充ちて溢れて、何れにか噴き出ようと道を求めてやまないで居る事を感じないでは居られません。最近に於ける婦人界の動搖某々婦人等の動靜、乃至は各種婦人團體の消息など皆全てこれを裏書きするに足ると見る事は出來ないでせうか。然し乍ら、私は婦人が徒らに抽象的な權利義務の概念に捉はれて悲憤したり、反抗したりすることを不快に思ひます。權利と云ひ義務と云ふ言葉が、法律書等に散見するものに似た外的、概念的な乾いた感じを與へるからばかりではありません。全ての運動は、その人達の實感から來た生きた要求から始められるものでなくては、決して生命ある、眞の意味の運動であり得ないと考へるからであります。

私は或人に勸められて、太陽七月號所載の山川女史の「新婦人協會と赤瀾會」を讀みました。かね〴〵尊敬してゐる先輩の一人としての女史の書かれたものを讀むにあたつて、私は例に依つて大きい期待を持つてをりましたが、勿論そこには啓發されるに足る、多くのものがありましたが、毎ものやうな女史獨特の明快な閃きよりも、所謂女性的な反感や漫罵が多かつたやうに思はれて失望しました。例へば、「市川氏の爲人も知らず思想も知らぬけれ共眞面目な實際家であるとは一般の風評である」として其の希望を附言して居られるがこれのみならず、あの一文を書かれた女史の考へは、殆ど全て新聞記者が一般の風評を綜合して想像した新婦人協會といふものに就いてゞあるらしく私には思はれました。今更私から注意する迄もなく新聞の報導や、ジャーナリストの噂が如何に信ずるに足りない無責任なものであるかは、先刻御承知の筈とは思ひますが、今少し事實に就いての批評や要求を聞かして貰ひ度かつたと思ひます。平塚氏個人のためにも、協會のためにも、更に云ひ得べくんば女史自身のためにも。斯ういふデリケートな問題が、如何に下劣な多くの男子の誤解を擴大し、同時に婦人の進歩をも阻害してゐるかに就て、女史の再考を煩はし度く思ひます。

私共の理想とする社會、斯うあつて欲しいと意思する社會がどんなものであるか、それは云ふ迄もな

く一言にして説明する事は到底不可能ですが、亦何人がどんな社會を想像し意思しようと、それがその人の全人格な考察の上に立つたものであるなら、それを尊重したいと思ひます。さうした樣々の暗示に依つてよりよき社會が生れ出づるものであると信じますから。からいふ意味で、私はとりわけて普通に社會主義者と稱せらるゝ人々の排他的、狹量さを遺憾に思つてをりました。自分の信ずる主義に執心するあまり、一にも二にも社會主義でなければ不眞面目のやうに見える心理は解らないでもありませんが假令社會主義が如何ほど完全な新社會を招來するための唯一つの道であるとしても、何でも社會主義でなければならぬといふその排他的、狹量だけで、その弱點一つでも、次代を形成する力として根本的な或るものを缺いてゐると私は思ひます。況して私は社會主義も、其の他のアナアキズム、サンヂカリズム、ギルドソシアリズム等とひとしく學説としては、實にいゝいろ／＼な暗示を數多く私共に與へて呉れることを認めます、　それが實際生活と面接させる時にそれ／＼修正されなければならない弱點を含んでゐると思ひます。私はそれらのイズムを尊重します。然しそれ以上に人間の根本的な要求を尊重したいと思ひます。私達はブルヂョアの强制を嫌ふやうに、等しくイズムの强制をも厭ひます。

私共のやうに毎日貧棒と馳け競べをしてゐるやうな生活を續けてゐて、食ふための營みのために追はれて讀みたい書物を買ふ事が出來ないばかりか、子供を愛する事も、日毎に伸びてゆく草木の苗をいたはる事も、喜びや悲しみや憤りさへしみじみと感ずる餘裕を持つ事が出來ない程慌しい、慘めな暮しを餘儀なくされてゐる者にとつて、現在の社會が不合理でなくて何でせう。呪はしい、不可解な事ばかり多い不合理な今日の社會制度に代ふるに、男も女も人間としての喜びを充分に味ひ得る社會を希望する者は、現在の不幸を切實に感じてゐるこの私共自身です。そして遠からず新しい社會制度を實現させる力も亦、この私共の實感の生んだ要求に外ならないのだと信じます。

山川女史の理想的社會がどんなものであるかは、私にも凡ぼ想像出來るやうに思ひますが、現在一般

の婦人は何を考へてゐる乎、今日の勞働婦人は何を意欲してゐるかに就いて、氏がどれだけ洞察と理解を有してをられるかは疑問です。この場合恐らくは氏等は云はれるでせう。彼等を斯くの如くに無智と窮乏とに陷れたものは誰か、と。そしてそれは今日の資本制度であるのでせう。然し今日、事實彼等は斯くの如くに無智なんです。私は資本主義さへ□□したら直ちに今日勞働婦人が救はれると思ふ事は樂觀であり過ぎると思ひます。無智な今日の勞働婦人が目覺めて、自らの立場を自覺し、如何に資本主義が人間としての彼等を掠奪しつゝあるかを知り、如何なる新社會を招來させなければならぬかに就いて思考し得るものとなるためには、どんな準備が必要であるかを忘れる事は出來ません。私が指導者顔をした智識階級の勞働運動リーダーに多くの尊敬を拂ふ事が出來ないのも此の點です。要は何よりも彼等自身の要求に俟つべきだと思ひます。

一般の婦人運動に就いても私は斯う云ひます。今日の婦人にとつて、問題は未だ議會政治の肯定とか否定とかにあるのではなくて、何故に議會政治を批難しなければならぬか、政治とは如何にあるべき乎を學ぶべき時なんです、と。此の意味に於て、私はわが新婦人協會のした對議會の運動が強ちに徒勞であつたとは思つてをりません。勿論あゝした別社會に足を踏み入れて交渉を持つ事が馬鹿々々しく、何といふ大きい犧牲を拂はせられることだ！ と呟いたことも二度三度ではありませんでしたが、政治家とはどんなものであるか（新聞紙や無責任なジアーナリストの傳へるものでなく確かな實驗で）を親しく見、聞き、感じたこと、及び一般の婦人をして少しでもその興味を政治問題に向けしめ、政治上に於ける婦人の地位を自覺させるに役立つた點、又現在の政治家達――それ自身もう既に破滅へ急いでゐるものであるが、――私達の要求をどんな風に取扱つたかといふ事を一般に知らせた點に於て、必ずしも

無意義ではなかつたと思ひます。或は、さうしたことは解り切つたことだと云はれるかも知れませんが治安警察法第五條の如き惡法が、婦人自身が少からぬ損害を蒙つて居乍ら、勞働婦人は無論、知識階級の婦人達すらそれを意識しない者の多い世の中に、さうした存在をその人達の意識の一隅に上せたといふだけでも、批難さるべきことではありますまい。現に婦人は、社會的に自覺すべく餘りに傷けられてをります。婦人自身が人間としての自覺を見出すためには、もつともつと健全な苗床を要すると思ひます。さうした意味ではブルヂョアと云はず、非ブルヂョアと云はず、女性といふ名に於て等しく自覺と團結とが要求されるべきであらうと思ひます。彼等は等しく男子專制の壓迫の下に横へられてゐるではないでせうか。男子專制の思想は、當然除かれなければならないそれらの階級的制限を越えて、人間心理の上に根深く喰入してゐるものであると思ひます。

全ての場合、婦人の解放は婦人自身がその行くべき道を感得して猛進するにあります。婦人自身の自覺を外にして、多數の勞働者階級の人々の手にて、又は勇敢なる智識階級者の手にて如何に理想的な新社會が形造られようとも、恐らくは婦人の奴隷的な存在は今日のまゝであるでありませう。そこには婦人の外的な地位の向上はあるかも知れませんが、所謂男子專制から婦人を救ふためには、婦人自身のほんたうに目覺めたる力に俟たなければなりません。

私共は今暫く隱忍して犧牲を惜しまず、將來の婦人の大團體的活動のためにその地ならしをしたいと思つてをります。餘りに性急に團體的活動を期待する時は名實相伴はずして團體の力に於てするのでなくて、團體の名に依つてなすといふ不都合をまぬがれないでせう。新婦人協會が眞に實力ある團體として活動をなすためには、尙暫くの時期を必要とするのではないかと、私は考へてをります。

急轉直下の勢で現在の社會を改革する事よりもより多く困難な事は、箇々の人間の心理に沁み込んでゐる意識的、或ひは無意識な社會惡を除き去ることであります。殊に日本のやうに島國的な、そして軍

國主義的色彩の完備した國では、その後者をより多く强調する事が、社會改造を齎らす前程として必要であらうと思ひます。

私は新しく興つた赤瀾會に就いて、詳しく知つてをりません。然し婦人界のために多大の氣を吐いてゐて下さることには、遙かに深甚の敬意と謝意とを表してゐる者であります。

擱筆するにあたつて、私は山川女史その他の赤瀾會の人々が徒らに野次半分の智識階級や、低俗なジアーナリストや、愚鈍な警官なんぞを相手にしないで、一日も早く勞働者婦人の間に身を投ずる事に依つて、その團體的威力を以て、私共婦人の解放のために何等かの實際運動に出でられんことを希望して止みません。そして賢明なる氏等の運動は、私共にとつて必らず敎へられるところの多いものであらうと信じて疑はないのであります。

ひしがれた女性と語る

——近頃思つた事——

中條百合子

最近、計らずも身邊近く見た或婦人の境遇が、自分に種々の事を考へさせました。

其婦人と云ふのは、もう四十歳を幾つか越した年配でした。けれども、少女時代から、決して幸福な生活のみを經驗して來たんではありません。

僅か十四五の時、兩親には前後して死去され、漸々結婚が未來の希望を輝せ始めると、思ひもかけず長年の婚約者との間に、家族的な障碍が横へられました。

兩親の死後、彼女の新たな保護者となつた長兄は生憎、許婚者の父とは政敵の關係にあつて、其反感から、どうしても二人の結婚を許可しようとはしなかつたそうです。

其處で、當時の意向では、ほんの當分の才便として、彼女は從來の生活をすつかり改め、幸、裁縫が上手なのを利用して、或小學校の教師になりました。

家兄の許を離れ、自己の生活を營んで幾年か經つ間には、何時か、自分達の希望が遂げられる機會もあらうと云ふのが、勿論、彼女にとつては唯一つの光明であつたのです。

處が、先方の男子は、四五年經つうちに、何か家庭の事情と云ふ口實で、突然、他の婦人と結婚して仕舞ひました。

その翌年家兄は急劇な流行病にかゝつて死去し彼女は暫くの間に、よかれ、あしかれ、兎に角生

活の支柱と成つて居た二つの者を一時に失つて仕舞つたのです。

此事は、當然、彼女の内心に改革を起しました嘗つて、婚約者と結婚をし得る、最少限でも希望があつた間は、彼女にとつて孤獨な生活も、前途に何等の陰をつけませんでした。僅かの給料を唯一の資力として微に支えられて行く生活も、いざと云ふ時、後で手を延して與れる者が在る間は凌ぎ得ない苦痛ではありませんでした。が、頼るべき何人も何物も無く、全く一人ぼつちに成つて見ると、彼女にとつて現狀のまゝを引延して豫想した未來と云ふものは、何とも云へない恐ろしいものと成つて來ました。

暫の間、困境の激變に亂れて居る心の焦點は、其が鎭ると共に、底の知れない將來の不安の上に全力を集注させて仕舞つたのです。

彼女にとつて、此根本的な不安を除去するものは、結婚より外に無く感せられました。當時三十歳を越して居た彼女は、自分の境遇に同情し、所謂世話好き人の媒妁によつて、土地では金持として知られて居る或男と結婚することになりました

少女時代から不運で、陰氣な人生の片側を歩いて來た彼女は、全く、生涯をかけて、嫁して行つたのださうです。

けれども、結果は惡く、三年同棲する間に、女性が其の良人に對して持ち得る極限の侮蔑と、耻と憤とを味つて離婚してしまひました。

生活の安全、幸福と云ふものは、只、金でだけ保障されると思つて媒妁人は、心から彼女の爲を計つて、却つて、富の程度に比例した非人間に、彼女を紹介する誤を犯して仕舞つたのです。

過般、私が遭つた時、彼女は、噂に聞いて陰ながら悅んで居た二度目の幸福な結婚から、不意に良人を奪はれて間もないと云ふ氣の毒な狀態に居ました。

切角人格的に尊敬し得る異性に出會ひ、まことに愛されもし、漸々遅蒔き乍ら人生か實りかけようとすると、今度は豫想外の死で、萬事は、動搖と不安とへの逆轉になつてしまひました。

彼女にとつては繼子である嗣子夫妻との間に理

解を缺き、亡夫の一週年でも過ぎたら、如何うにかして、彼等は全く絶緣した生活を講じなければならない狀態に成つて來たのです。

夕方、山を眺めて涼み乍ら、私共は隨分種々のことを話し合ひました。

彼女が、如何那に故良人を愛慕して居るかと云ふことは、些細な言葉の端々にもうかがはれました若し出來るなら、眞個に一生彼の妻として終始したいと云ふ彼女の希望には微塵も噓はありません

然し其なら、恒產も無く、老後を扶養して吳れる緣者もない彼女は、今後某々未亡人として、立つべき如何那生活方針を見出してよいかと云ふ、實際問題になると、考へは荒漠とした處へ迷ひ込んで仕舞ふらしく見えました。亡夫を愛する彼女は、嘗て一度目の失敗の後結婚に對したやうに半事務的な態度で、第三の良人を豫想するには堪へ得ないのです。然し、周圍が最善の道として彼女に示す處は、唯其の一路であると同時に、彼女自身も若し其を斷然拒絕するとしたら、果して後には何が、よりよき生活として見出されるだらうかと云ふ危惧を拂ひ得ないのです。

始め其ことを聞いた時、第一自分の胸に來たのは、何故其程、生活方法を見出すのが困難なのかと云ふ鋭い反間でした。

一人の女性が、眞實に獨立の生活を營まうとすれば、方法などは、いくらもあると思はれます。

第一、嘗て、小學校に教鞭を取つて經驗のある彼女は、何故又、小學校で女生徒のよい指導者にはなれないのでせう。

よし又、教員として技量に自信を持たなければ家政婦としても、家事助手となつても、生きて行く道は數多あります。方法が見出し難いと云ふのは、寧ろ自己辨護であるやうにさへ思はれました詰り、良人に對する眞心の愛は案外薄弱なもので結局第三の良人に赴かうとする前提として、一種の概念から發した口實ではあるまいかと思はずには居られなかつたのです。

私は、謹み乍ら、卒直に其感じを話した。が彼女の困難と云ふのは、私の理解した其とは違つて居たのが分りました。彼女の感じるのは、當面の

生活を營んで行く方便の見出し難いことではなく日に日を消して行く間、いつか必然起る人生のいざといふ場合を豫想すると共に心を解かさずには置かない、人心の頼り難さであつたのです。

假りに彼女が、或家の家政婦と成つたと想像します。彼女は、きつと親切や勤勉を抽んじて其家の爲に努力するでせう。

然し、人間が何時病氣にかゝらないと斷言出來ませう。若し、其が幸一月や二月位の病患ならば自身の貯蓄を費し儘しても、或は幾分かゞ雇主の負擔と成るにしろ、全然耐ゆ可らざるほどのことではないかもしれません。けれども、其が、幾年も幾年も繼續する種々な重い慢性病の一つだつたら如何でせう。

此は、私自身の周圍を一目見ても判斷はつきます。月々の月給を、適當に支給する丈の資力はあり、全くの必要からで其人の助を期待して居る家庭では、心こそ同情に燃え乍ら、半歳の療養を完全に與へることさへ、實際には不可能なことです

又假令、如何程經濟狀態は良好であるにしろ、今日、さう云ふ階級に屬すあらゆる人々が、彼等の被雇人に對して、全く彼我を忘れた愛で、十年十五年の醫療費を提供すると思へるでせうか。

死ぬにまで、苦々しい施恩と卑下に縛られなければならないと云ふ考へは、心を暗くします。

他人の世話に成らない爲に、養老院と、慈善病院があるではないかと云ふ人が無くはありますまい。けれども、私共が自分自身を、其裡に置いて考へ、感じた時、彼處は果して快い平安な最後の場所でせうか。

家族制度によつて、過去幾百年來、全然、子と呼ぶ者を持たない人間、全然、扶養される權利を主張しない老人のあることに馴れない一般は、まだ〳〵其等の機關に「人の棲むべき」光明と魂とを與へて居ません。

公平に云つて、現在其等は、避けたい場所でなければなりません。

若し、貴女が眞個に良人を愛し、其愛の爲に自己を貫き度いと云ふのなら、何處まで遣れるか、遣れる處まで突き進んで見たらよいではありませ

んか、假令其爲に行倒れになつたとしても本望でせうと云ふ、言葉は燃え、壯んです。

けれども、其が、全く生命を以て生きるのは、義人の魂の裡丈だと云ふことを、私共は忘れてはなりません。

十人の人は、皆、正しく生きたい本願を裡に潜めて居ます。が、其と同時に、あらゆる地上的な幸福に手を延すことを制し得ません。

如何うにかして、正しく、且つ健に樂しく、生活は運轉されて行かなければならないのです。

私は、彼女の良心の希望の對立を認めない譯には行きませんでした。眞に良人を愛した者が、次の結婚を無感覺に事務的に取扱へないのは、本當の心持でせう。其と共に、彼女が、出來る丈、人並より僅少に思はれる幸福の制前を逃すまいとするのも、嘲笑するどころのことではありません。

此處で、考へは、いや應なく、又、其ならば如何うしたらよいか、と云基點まで逆戻りをしなければ成らなく成つて仕舞つたのです。

實際問題として、彼女も自分も共に滿足する解決を見出すには、自分は餘り無力でした。

彼女は、今に必要な時氣が來れば、きつと結婚することになりませう、彼女に對して、自分は、幸福を祈る以外の言葉を持ち合はせません。

人間の生活慾は、物凄い迄に強靭なものです。如何うにかして彼女の一生は過ぎませう――が……私共の考へるべきことは此處で終つてよいのでせうか。

私は、是非もう一歩、進めたく思ひます。

若し、我々が、人生を只食つて生きて安わして行く爲のみの實在を認めないならば、種々偶然的な境遇の力に支配されて、大切な人間の核心を失つて行くものを、己を得ぬことゝして傍觀する自他の不誠實だけは、極力排けて行きたく思ふのです。

性格の或傾向が內的動機となつて對照との間に生ずる個人の運命は、全く運命で或程度までは不可抗であり絕對です。けれども、境遇によつて、人間の心が生かされ、殺されて行く場合には、疑なく他から加へらるべき何ものかがあると思ひます

人類中の、少數の人々にとつては如何那る地上的幸福も悲慘も結局、內奥の人格に些の汚點をつけるにも足りないと云ふ特殊な場合はあります、非常に偉大な人格は、全く獨立した人格で、何處にあつても、悩境を超えて其が素で働いて行くと云ふことなのです。

然し、我々は、ざらに、其程宏大な力强い人格を期待することは出來ません。

境遇の善惡、幸不幸などと云ふことは、其によつて人格が何等かの影響を與へられるからこそ問題となり得るのです。要點を云へば、境遇と云ふのも、單に具體的現象の種々な相自身を指すのではなく――親が無い、極度に孤獨だと云ふ其事實を云ふ其事實を云ふのではなく――其事實に籠つて居る心理的な暗示の要素を指す事になります。

其故、若し我々が眞個に人間を愛し、女性と云ふ相互の密接な關係を愛するならば、人とし、女性とし、生くべき心を無にするあらゆる境遇は、改善して行かなければならないのではありますまいか、

その婦人のやうな場合も、若し、現代の社會に何の違つた組織の一つが加へられて居るならば、もつと異つた結果になりはしなかつたらうかと思はれます、

假令若し、彼女の最初の婚約が全然絕望的なものと成つた當時、既に、自力によつて一定の收入を得る總ての女性間に、經濟的相互扶助機關が確立して居るとしたら、如何うなつたでせう。

收入の幾割かを皆が積立てて、其適當な運用、利殖によつて、組合員の老後や病時の安定が保障され得るとしたら、恐く彼女はあれ程生存の不安に追立てられは仕なかつたでせう。

從つて、第一回の恐ろしい失敗は或程度まで未然に防がれた可能があり、同時に幾年かのより長い經驗で裁縫なら裁縫の技術が練磨されたと共に今回のやうな不幸に遭遇しても、全く、人間としての希望の上に立つて、根底ある生活を持續し得る信念を與へられたのです。

勿論、右のやうな經濟的一度、基礎的團結のみが個人の價値を、急激にあげようとは思ひません

然し、例へば彼女のやうに、或程度の人格的覺醒と同時に、傳習的虛弱さを具有する今日の多數の女性の爲には、少くとも、生活の根本動機を自己の心意に置き得る丈の役には立つと思ひます。

良心の疚しさを、種々な自他の慣習的辨護で云ひ繕ひ乍ら、粗野な言葉を許されゝば、幾十人の女がしたやうに、糧食と交換に「女性」を提供する、「氣」にならずにはすむ譯です。

口實を許す「實際的必要」がなくなれば、口實によつて人格を無視する譯には行かなくなります既に、左樣な組織が存在すると假定すれば、目下種々な事情から生活方針の選擇に迷つて居る者は少くとも最後の判斷は自分の心によつてなされるのだ云ふ責任感も與へられ、當然、考察の深化と視野の擴大は豫期されます。又、此から人生の始らうとする者は、先づ人として立たうとし、前時代の女性には一種の宿命的威嚇であつた「身の振りかた」と云ふ概念に制せられないでもすむことになるではありますまいか。

現今、學識の深い女性は多くあり、特殊の技能を持つた婦人は非常に增加して居ます。其の中の或者は、明に獨立的人格者として、生涯を自己の意志で支配して、或は、するべき必要を感じて居るのです。然し、平時の生活は如何うでもなりはしても、不時の災害の種々な場合を豫想して其を斷行し得ない者が幾人あるか分りません。

自分が一旦宣言して 境遇から、或人間の裡から去つたのに、どうして又病氣になつたからと云つて、おめ〳〵尾を振つて行かれませう、此心持は、感情として、非常な力を持つて居ます。

何も、總ての女性が經濟上獨力で生活すべき、と云ふ爲に此事が心に必要を感じさせたのではありません。或事——或生活が、或時代の多數の人間をより正しく——輝しく意義あるように生かせるとしたら、其を完うするために、相互の深い理解と愛から生じた方法、組織が親切に、賢く案出されるべきだと思つたのです。

此考へは、未だ考へとしても發育未完なものです。まして、容易に實行され得ることではありません。

けれども、私共に、只注入された知識としてのみ、よりあるべき内容の人生の可能を知つて居ればよいのでせうか。

土臺をかためる、一つの小石も運ばないでかまはないのでせうか。

私共は、眞個によりよい事實の上に生きることを熱望致します。

感想の斷片

關口冬子

苦勞といふ事はしなければならないものだと考へた時代があつた。その後で苦勞なぞはしない方が人間が汚れないでよいと考へた事もあつた。最後に又苦勞は徹底的ならばした方がよいと思ひ出した。

苦勞をしなければならないと思つた時代は半ば因習的に、又人として當然の道程である樣に、さうしてたゞ漫然と斯うして人間が研かれてゆく位に朦朧とした意識の裡に考へた事だつた。

×

純潔な一少女は兩手を擴げて勇ましく人間同志の苦勞といふ渦巻の中へ身を突進させた。さうして數年間隱忍の涙で洗ひ上げられた筈の魂は、不信と、憎惡と猜疑の不純に彩づけられた他、何物も見出し得ず、研き得なかつた事を知つただけであつた。かくて初の期待は見事に裏切られて終つたのであつた。

魂を不純にするばかりだ。苦勞なぞするものでないと此時思つた。

ひと度彩づけられた魂を始めの白さに戻す事は艱難な仕事だつた。それ處か、不純な繪の具の混じ合つたどす黑い池の中を逃れ出る事さへ、踠いても焦つても其時の力では到底及ばなかつた。

僞らない自分の言葉や行爲に始終人から疑惑の

眼を向けられて、豫想外の憎しみを受けたり、亦無邪氣な過失を重大な意味に扱はれたりした事等が目まぐるしい程幾度となく繰り返された後は、人の思惑を先づ讀んでかゝる癖がついて終つた。さうして出來るだけ批難を避ける爲に自己を虐げた。この生活が暫く續いた。然し自己を僞つたこの不自然な生活を遂に堪へられない時が來た。魂は安住地を失つて迷つた。迷つて迷つて迷いぬいた揚句、結局初めに考へた處の總てを卒直に受け入れて貰へたら、人間といふ名に於て免してくれたら、と希つた强い主觀的要望が、何時の間にか姿を替え客觀的に擴がつて自分の心を支配する樣になつた。

同時に一方では、又自然に母として子供に向けられる書も次第に成長して居た。

何時とはなしに完く自分を離れた無垢な姿で、子供の心の底まで這入つて行く事を覺えた魂は、同じ姿で人の心に迄流れ入る事に追々馴らされて往つた。

かくしてやうやくに濁つた池から這ひ出る事を赦される日が私に來たのであつた。

始めの清淨は到底望まれないながら、然し容易に彩づけられない、さうして容易な心で人に向へる樣になつた現在を滿足しなければならない。

やつぱり徹底的になう苦勞する方がよいと想つたは、最後に得た信念であつた。

◎

今度自分は、會といふ會から全部關係を斷つたその事に就て私は何の説明も加へたくなかつた。私は唯、無言で居たかつた。純粹な心を欲求を人工的に彩づけたくはなかつた。それだのにさうしたやり方を人は許さなかつた。あたりの環境はやつぱり私に或る程度の説明を求めた。

×

多くの人は或る出來事に就て、興味的に事實とか、理由とかを探りたがるものだ。

先づ第一に各自の主觀を透して想像を描く。さうしてやがて明らかにされた事實なり理由なりが嘗て描いた想像とぴつたり合致すればその人々の想像程度によつて、或は賞讃したり、或は惡罵を

救つたりする。
もし又事實がその想像を裏切る場合にも柔順に夫を受け容れ樣とはしないで、飽迄も自己の想像の裡に解決せねば滿足しない。主觀と結びつけずには肯定しない。
かくて多くの人達は總てを興味的に觀、手輕に片づけて終ふ。

×

今私の魂は糧に飢えて居る。人中に立ち交つてふと自分に歸る時、大きな空虛は浪の如く襲ひかかつて來る。底知らぬ羞ひに魂は戰く。この空虛この羞ひを私はやつぱり自分の手で解決しなければならなかつた。
讀みたい、考へたい、といふ心的欲求は 止み難い心の焦燥は、日を逐ふて益々熾烈に燃えて往つた。さうして又この不完全な、たつた一人の自分にさへ滿足の出來ないこの私といふ人間が、會といふもの丶名によつて同性の前列に立つて歩み續けて往くといふ事は大きな一つの苦痛であらねばならなかつた。

×

また、子供に對する愛が私を家庭へ引きつけて往つた。
何物にも替え難き、吾が子への愛に今更らしく醒めたのではない。
日がな一日家庭に在つて子供の傍に居ても、本當に子供を愛する道を識らない母親達よりは、遙かに吾が子に對する愛の自信は持つて居た。唯、今は理性を離れて、子供とより多くの時間を共に在りたいといふ止みがたき感情を抑へる事が出來なくなつた。果無き親子の緣を想ふと淋しかつたたつた二人しかない、さうして早く懷を去つて往く女の子ばかりを持つた私としては、無遠慮に吸ひ取られてゆく會の爲め時間が腹立たしかつた。會が何だ、微力な一箇の社會奉仕が何だ、私は唯限りなき子供への愛に生きたい。

×

自分に潔癖な私が會を持つて居る以上責任も完うしたかつた。義務も盡したかつた。會に對する理性と、自己の本質的感情とが火玉を散らして戰

つた。
愈々行詰つて最早之以上は、魂の破裂を待つより仕方なかつた。不完全な人間の私が無制限に割いた時間を引締めなければならない時が來た。さうして愈々それを斷行する時期を待つた。

×

創立した音樂團體、清樂會は五月の大會によつてやうやく基礎を固めた。世間に相當な權威も示した。夫が私に安心を與へた一番大きなものであつた。又會と會との相互的な交際も一段落ついたさうして關係のある總ての會も又一般の婦人界も平調を保つたまゝ靜かに社交期を終らうとして居る。此の時期を措いて時はないと考へた。さうして遂に宿願を遂した。

□

會の總てから隱退せずともとか、會員だけに殘つてもとか云ふ論も聞いた。然し中途半端なやり方をして却つて誤られ易い感情問題と結び付けられるのもいやだつたし、又會員だけといふ事は、見す見す前轍を繰り返す基を殘すに過ぎない事も解つて居た。さうして又、總てを徹底的にして終はなければ、望んだものも思ふ樣には獲られないといふ事も知つて居た。

要するに今度の行爲は純粹な自己主義から出發したのであつた。之は誰にでも求むべき事ではない。誇る事では尙更ないのだ。唯、私自身が自分の往くべき方向に向つた迄の事であつた。

この自分勝手な自己主義の上にむけられる鞭を私は甘じて受けねばならない。然し世評と批難との爲に自分自身を僞る事は出來なかつた。（終）

（大正十年七月十八日）

一日の仕事ののち

あらゆる外面を過ぎ去り、過ぎ去り
無數の港灣ある太陽の上を泳ぎ乍ら、漂ひながら——
われまた竟に卿が胸に巣くひたり。ォヽ人間性よ、疲
れてわれはわれみづからを
生の塵埃より、卿が淚のうちに洗はるるべく卿に委ね
たり。

カアペンタア

眞の自由について

中井愛子

――人は云ふ、この世に於て總ては空虚である、と。私は其を知らない。併し私は斯う感じる、健全（ゲツントハイト）と太陽（ソンネ）は、吾々の欠くべからざるものである、と――

セガンティニ

健全と太陽、これ實に吾々の生命の糧である。人間の精神生活は絶えず調和を求めつゝ進展してゐる。罅隙は一種の病的である。少しでもこの病痕があらば、自ら癒やし自ら病苦を免れやうとする。かくて一歩一歩、自己完成のために驀進する、人間のこの不可思議な力の働きそのまゝが生でありそれに一になる時、もう力は自分と別のものとしてこだはりを感じなくなる。そして自分では無能と思える位靜かな狀態に安んじる。此深い太洋のやうな靜かさには何物も脅かさるゝ事ができない。

これ吾々の到達すべき目標である。併し私は更に、精神生活の不協、病魔に對して飽くまで闘ひ心の炎熱にも皓冷にも堪え得る、即ち試練として自己の全き完成にのみ役立てる所の健全を希望したい。大きな矛盾はそれを統一するために價値があり、支離滅裂は、それを更に大らく組立てるので、その破片自身に意義が生じて來る。この破壞と構成、否定と肯定、この錯綜が人間の奏でる壯大なる交響樂である。人はこゝに安易なる感傷主義を脱し、悲喜劇の人生の美を、自分を離れて觀ることができ、感激と苦悶からさへ、一歩外れて自己を眺めることが能きる。さうかと思ふと、小さな人間がものを、ありのまゝ、現實の世界しか見えない所に、熱情のまぼろしを畫いて自ら苦んだり、直接な、眼の届く範圍しか見えないところにも、過去と未來を貫く永却の中に自分を融かし込んで、或は自ら永久に輝やく天の星座に列れたやうな氣がしたり、又は昆蟲よりも自分の存在が小さく見えたりする。總てを虚と感じるかと思ふと、また自己の中に限り無く幽玄なる深淵を夢

みたりする。この變化自在桿の杆やうに搖れるこころに果て中心が無かつたらば如何なるだらう。健全なる活動は總て包捨して、しかもそこに自己を貫く中心を失はない。この考察と反省によつて漸次中心の色は濃厚となり、恰かも深淵が碧空全體を反映するやうに、何ものにも影響されること無しに、其處に無限の相を滿へる。

この總てをとり入れて其を溶解し、雜多と復雜をして一たらしめる中心の力とは何であるか。其は丁度太陽が生物の母胎であるやうに、また吾々の生命の泉たる太陽である。は自ら燃えて盡きること無き光の當體である。「己が把握するものは火となり、己が放棄するものは灰燼となる。まことに我は焔なり」とはニイチエの言葉である。この光の當體、其は明らかに外に求むべきでは無く内に存するのである。限り無き多用、動搖して止むこと無き生成は、この内なる泉に浸すことによつて、この光に照らすことによつて、それは全を包含する一となり、有限のうちに悠久たることができる。この光とは吾々の内なる神性(ゴットハイト)に他ならない

プラトーのイデーを感ずる心、スピノザの神に對する知的愛、共に此内なる太陽の閃きであつてこの閃光が眞に神を知り、又エロスを直感せしめる睿知である。吾々が現實の映像によつて、イデーの家郷を想ひ起し、其を憬がれ愛する時、初めて吾々のこころは實在を知るやうに高められる。この變轉する現象の中なる永久の實化、知慧の眞の對象、吾々の欲求の終局の目的であるこのイデー、プラトーによつて、啓示されたこのイデーを愛する心、エロスは、當然吾々の熱愛する故郷であつて、心靈の最後の安息所である。吾々は其を摸倣した現象の中を摸索して居る。讀んだと思つた自然の姿は、ただ吾々の單なる經驗によつてそのアルファベットを解したに過ぎないことによく氣がつく。イデーを眞に知解する人は、其を體驗する人は、永久の實在に參與することができる。吾々の當爲(ゾーレン)の世界は當然此處に求むべきではあるまいか。このゾーレンに歸及する所に吾々の眞の自由が存する。このイデーに照し、それ以外の拘束から自由に、ただそれに執着して離れない所に自

由が生れる。プラトーはかの希臘的精神の充滿した總てに鋭どく刺激され易い藝術家の心を以てして、しかもその美に對する官能の悦びも、最も自由にイデーの境地を彷ふた。

またスピノザ懸なれ位迫害されながらも、剛毅に自己を守つた、彼自身を貫いた精神は、神に對する知的愛であつた。それは無限なる神性を愛し、それを知らんとする情熱に他ならなかつた。彼は是が爲に、生活の全部を傾け盡し、ただ神性に對する聖火だけが燃えてゐた。此神性を眞に認識する所に又一切の認識を含んでゐる、と彼は思つた。即ち神は一にして全を含む。即ち神は永遠なる實在であつて、又其は各永遠無限の本質を表示せる無限に多くの屬性より成れる故に、各の屬性は又神の性質、永遠を含まねばならない即ち無限が、有限其者ゝうちに、内的の必然をして存在するのである吾々の心は、イデーを想起する事によつてのみ高められ、吾々の限りあり、不完全なる存在が必然的に完全と無限を希求してやまないのは、それは吾々が神性を有する證據ではあるまいか。この神性こそは、私の云ふ太陽、生命の泉である。

吾々は最早や外なる神を摸索する必要は無い。内なる神性の閃きに眼を見開いて、その前に敬虔に跪づかなければならない。この限りあり、不完全なる我のうちに、限りなく又全き神性を發見することが最も高い努力ではあるまいか。しかも一度眞に自己に眼覺めたものには、のつぴきならない吾々の必然の要求なのである。さうして其をおいて、また他に吾々を救ふものはない。即ちそは毫も外より規定せられるところなく、自づからなる活動であるから、この神性に對する愛の鎖にしつかり繫かる所に吾々の眞の自由が存する。

スピノザはこの知的愛の本質の性質が自由である、と説いた。自由とは吾々のキャプリッシアスな自由意志ではない、却つてそは神の本然の性に抗つた即ち外界に規定された狀態である。自由とは必然、云ひ換ふれば人間がイデーに照したゾーレンに終始するところに存するのである。吾々は惠まれたる容知によつてこの内なる神性を自覺する外界の影響によつて曖昧にされた我の中から、僞

つけざるイデーを救ひ出でたることである。この自覺の必然から吾々の自由は生れる。そこには何の拘束も無い。何故なれば、この時吾々は一切の受働から解放されて、ただ自分自身の活動、能動あるのみである。

よく諺に、窮すれば通じる、と云ふことが、人は行く所まで、極まる所まで窮してみて、始めて通じるものである。否定を押し進め、衝き破る時其處には自由自在の實現力が閃めく。即ち拘束の羈絆を絶つてそれを自己の活動に變じる一轉機をいふのである。人がありつたけの努力をした時に神意が閃くとはこの機鋒を云ふのであらう。

併乍、一切の拘束の關を破り、自在の境地に出やうとするのは、是非、自己が自己の神性に向て謙譲に跪づかなければならない。さうしてまづ自己を束縛する自らの拘束を免れなければならぬ。自己の完き活動に逆行する者は自由を防げる吾々が完成を目標とする限り、其處に必然の自由がある。必然とは强制ではない、最も自由なる必然である。吾々がいやが上に意力を擴充し、美に對る感情を高揚し、聖火を熱愛する、是最も自由なる必然である

この自己の內なる神性を知解する、健全なる精神が、自己の中たる太陽、崇高なる神火をほんとうに體驗する者は併し乍ら至難である。自ら知つたと早合點する所は容易である、けれ共偉大なる人にして始めて、此生命を獲得し營爲する事ができる。ダンテの樣な偉人ですら「人間の量り知れない神性の閃きを、極く微かながも自分は啓示された。そしてそれは全體の一部分である。閃光でも、私は後の世に傳へる事ができたなら」と歌つてゐる。此光こそ始めなく終なく、時間を超へてゐる。滅ぶべき人の世に、此光こそ、永久に人類の歴史をつくり魂から魂に傳はる永刧の光である私達は其火花の一尖端でもいゝ把握して、此現實に、倦む事なく不滅の象をつくる用意をしなければならない。暫有の生の中に、過去も、未來永刧も包含さる可である。滅ぶべき生に、永久に滅ぶべからざる聖火の宮殿を建てる可ではあるまいか

この必然なる欲求の上にこそ眞の自由の存することを私は敢て强調したい。

變化しつゝある女性の地位

ハヴロック・エリス

我々の曾祖父達が、婦人の地位に關する傳統的な觀念の内に、不調和な破綻を、自覺する樣になつたのは、十八世紀の頃で、現代的思潮が、漸く萠し始めた頃であつた。當時世界の中に、みなぎつてゐたところの正義、自由、平等といふ樣な大きな叫びが、壯に其處此處に於て、婦人に對して適用論議され、殊にフランスに於ては、コンドルセーによつて、それが論せられ、かくて一つの新らしい運動が發達する樣になり、又英國に於てはメリー、ヲルストン、クラフトが、この運動に贊成するに至つた。

メリー、ヲルストン、クラフトは、勿論あまり讀まれなかつたけれども、あの有名な「婦人の權利擁護」といふ本を著はした。其の本は、輕卒に書かれた斷片的なものであり、又、彼の女と同時代の人に與へたほどの驚異を、我々には、決して感じさせはしないであらうが、併し、それでも、彼の女は、婦人の社會的狀態に關する問題を、根本的に了解して居るところの、見識ある婦人であるといふことを、我々に示してゐるのである、たとへ百年間の世の中の進步が、その間に、あつたとしても、彼の女の直觀は、現在に於ても尙ほ、少しの變更するの要は何もないし、又近時の婦人の參政權の主張者等が、彼の女の簡單な所說に對して、何物をも加へる必要がないのである。又彼の女は、婦人の參政權獲得は、婦人運動にとつては、すべての進步の「成就であり又完成である」と云ふ樣なことを云つたミス、コッペの奇怪な意見とは全然その考を異にしてゐる。クラフトは、むしろ參政權をもつて、進步の合理的條件の一つ

であると考へて居るのである。今日の多くの婦人問題の主張者等はみんな自分勝手のことばかり云つて居る。私達は、そんな中心をはなれた活動から去つて、メリー、ヲルストン、クラフトの温い多方面に亘つた智識に、心を向け、平等な率直と敏感とをもつて、凡べての問題にふれることは、愉快なことであると思ふ。

新らしい革命的思想を、誰よりも卓越して立派に代表して居る者は、勿論、ジョーヂ、サンドであつた。彼の女は、いつも、みすぼらしい服裝を身につけて居つた、そしてその生活は、彼の女のまづい小説を書いて、支へて居たのである。しかも、彼の女は、歐洲全體に、非常な影響を、與へるに至つたのである。彼の女は、豐かな又大きな天分を持つて居た。併し此の天分は、しば／＼上流階級の天才の中にある樣な二重的のものであつた。彼の女は、一方に於て、立派な落ちつきを、持つて居た、權力に對して動かない智慮を、持つて居た。冷靜なおだやかさやさしい容姿、低い聲の中に、表されるところの、善良なブルジョアの資質を持つて居た。然るにそれとは反對に、又他の一方には、彼の女は、燃える樣な革命的要素を持つて居た。又法律とか或は又習慣に對して、非常な嫌惡の情を持つて居た。即ちヂョーヂ、サンドは、彼の女の全生涯を通して、強いそして立派な個性を、恐らくは、不調ではあつたであらうけれども、丁度ゲーテのやうに、ほんとうに眞實に、又勇ましく發達せしめたのであつた。

ロバート、オーエンは、フランスのサン、シモンの樣に、社會の改造のあらゆる努力に、多くの刺激を與へ、又多くの現代の運動の種子を、植えつけたところの人であるが、彼は又其の感化を、性の世界にも、及ぼさずには、居なかつたのである。彼の弟子の一人であり、そして社會主義の經濟學史の中に、今なほ著明な地位を保つて居る、ウイリヤム、トンプソンは、ミセス、フイーラーといふ婦人の鼓舞によつて、次の樣な著書をあみそして、一八二五年に發行した。それは「人類の他の一半なる男性が、女性をして、政治的にもそれから又、市民的及び家庭的にも、奴隷として置

かうとする考に對する、人類の一半の女性の訴である。」それは、兩性の完全な社會的平等に對する徹底した、そして又理論的な、ほとんど雄辯とまでいひ得るところの要求である。それから四十年の後に、ミルが又婦人によつて感激を受けて、彼の著者「女性の服從」を公にした。それは、我々には、どんなに部分的で、又不充分である樣に見えても、その時代に於ては、一つの著明な本であつたのである。ミルの透徹した觀察力と、女性的な感覺とは、女性の地位と能力とに關する彼の觀察に、生氣を與へ、又一方に於ては、彼の名聲によつて、其の言に、重みと共鳴とを、加へるに至つたのである。それ以來、文學上にあらはれたところの婦人の狀態、或は地位に就いての現狀打破の徴候は、一卷の書物の中にさへも、載せきれない程、たくさんになつて來る樣になつた。

婦人が今入りつゝあるところの地位は、昔の共產主義の樣に、實際的に、男子の上に、彼等をおくのでもなければ、又その次に起つた時代の樣に事實上からいつても、亦理論上からいつても、男子に服從するやうな地位に、彼等をおくのでもないそれはちようど、社會に對する權利と義務との樣に、男性と女性とを、お互に竝べて置くのである。

コンドルセ、メリー、ヲルストン、クラフト、ジョージ、サンド、オーエン、ミル、これらの人々は、此の潮流の先達であつた。彼等は、社會生活の中心から湧き出たところの力を、指示したのである。あの母權制度をつくり出したところの、歷史的運動は、その興亡を等しく、大方衣食と財產とに對する要求、即ち經濟的の原因理由に、負ふて居る。又すべての權力が、男子の頭上に集中せられてゐたところの活動と、感情の諸式とは、新らしい組織がおこつてからも、尙實際に持續して居た。族長政治の家族に於ては、婦人は尙、承認された仕事の範圍と、承認された生存の權利とを持つて居た。そして十九世紀の初めに於て、產業組織竝びに、產業組織が關係して居たところの眞の個人主義的の經濟が、急激な進步を見る樣になるまでは、英國の婦人は、彼等の家內工業を、

奪はれてしまつて、そうして競技場も、支配もともに、男子のみによつて、選擇せられてゐた競爭に、加はらなければならないといふ樣なことは、なかつた。商業的、産業的組織と、それを伴つて居て、そして又その根源を經濟的原因に存して居たところの、敎育の一般普及とは、婦人の地位を改革するに就いて、中心的原動力であつた。そして、今や男性側に於ける、限りない競爭の時代は最早、必然的變化の時に際して居るのである。

現在我々の社會組織の內に、二つの大きな傾向のあることゝは、明白な事實である。即ち、一方に於て、社會生活の筋道がます〲閉されて、單純平等な生活手段に關する組織が、增加しつゝあるが、他の一方に於ては、個人と最も密接な關係にある事物に關して、自由の範圍が、絕えず擴大せられて居るのである。萬人すべての人が平等に必要とするところのすべての事物に對しては、集中的法則が段々大きくなつて來て居るが、反對に、個人的思想に對しては、驚くべき程の自由を、主張するのである、我々は、我々の選んだどんな神でもいゝから、我々の思まゝの形式で、それを禮拜する。同樣な個人的自由が、性的關係にも、浸潤する樣になつて來た。そして、近代人があまり多くの種類に、分化されてしまつたので、平等な共通な要求を持つことが、出來なくなつたところのすべての事物に對してまでも、擴まつて來た。これらの二つの傾向は、相反するどころではないので、現代的生活狀態の下に於ては、一緖でなければならないのである。普通に所謂生活の肉體的方面と、いはれて居るところのものが、個人の特殊の天性を發達せしめるに、缺くべからざるものとなつたといふことは、たつた一つの社會的共同によるのである。將來の社會は、共產主義の廣い基礎の上に、たてられたところの、合理的無政府である。（K・K譯）

時事批判

軍備縮少問題

——ハーディング氏の提議に就いて——

らいてう

私共が世界の平和と言ふことを考へるとき平和維持の第一要件として最も重要な中心問題となるものは言ふまでもなく軍備縮少乃至撤癈といふことであります。そしてこの問題は大戰以來世界的の重大案件となつて居りましたが、今度ハーディング氏によつて突如としてこの同じ問題が提議されるに至つて今やこれに對する論議は一層盛に各國民の間に行はれてゐるやうです。

一體世界平和の理想は、以前は或る特殊な個人——即ち哲學者とか思想家とか呼ばれるやうな人達の心の中にのみ存在したもので、從つてそれが實現の手段方法も是等の人達によつてのみ只唱へられたに過ぎませんでした。更に言へばかのベンザムの如きも、又カントの如きも永久平和説を主張し、平和確保の手段として彼等によつて擧げられたそのいくつかの個條——例へば殖民地の解放共同司法裁判所の設置、祕密外交の否認であるとか、共和憲法の制定、公權の基礎を自由國家の聯

合の上に置くこと等――の中に兩者とも軍備縮少乃至撤廢の一ヶ條が加へられてありましたけれど併しなほこの時代に於てはかういふ問題は一般の興味若しくは注意を喚起するほど多數がその必要を感じてゐませんでしたし、從つて國際間の實際問題として取扱はれるやうにもならなかつたのであります。

ところが人も知る如く一八九九年露帝ニコラス二世の提議による第一回海牙萬國平和會議に於て始めて國際的に各國代表者によつてこの問題が討議され、續いて一九〇七年第二回海牙萬國平和會議に於て、再び附議されました。最後に國際聯盟の成立と共に、この問題は同規約第八條となつて現はれたことは私共の記憶に新なことであります

併し是等の軍備縮少問題に關する會議の結果はいつもどうでせう。第一第二の海牙會議の際は軍國獨逸の一貫せる大反對があり且つ時代もまだそこまで進步してゐなかつたのですから何等の具體的協定なしに――言はゞ體のいゝ形で葬り去られたことも止むを得ないとしても、久しく欺かれてゐた所謂武裝的平和の迷夢が遺憾なく打破された大戰の後に於て、しかも戰爭の悲慘を目擊して、世界の平和が人類一般の要求となり、軍備縮少が世界的輿論となつた眞只中に開かれた巴里平和會議に於てさへ、この問題は最も實行困難なるものとして、極めて冷淡に取扱はれ、遂に徹底的の解決を見ることが出來なかつたばかりか、僅に規定せられた第八條さへ實際に於ては公然無視されてゐるのが今日の狀態であります。

何故全人類が要求してゐることが、そして今や動かし難き世界的輿論となつてゐることが、實際問題として現實の國家の上に行はうとする時かうも多くの困難に遭遇せねばならないのでせうか。もしさうだとすれば國家といふものは少くとも現實の國家は我々人類の敵だと言はれはしないでせうか。私共は或る定められたる國の國民であると共に、常に世界民であり、宇宙民であります。世界民であり。宇宙民である私共は、地上の全人類が相愛相助の協同生活を營むことを望み、又さういふ生活を營み得るところの世界の制度組織を望

んでゐます。然るに國民としてその同じ私共は、自國の存在、自國の利益のために、その同胞である他國の國民を敵として欺いたり、傷けたり、殺したりなければたらないといふことは、又さうするために平生から軍備を怠らずして置かねばならないといふことは人類が現實生活の上で經驗する何といふ悲しい矛盾でせう。

人類がもつてゐるどんな高遠な理想も尊敬すべき思想も一度國家の手に、政府者の手に移されると同時に政策化し、國家的利己心の前に、或は是とされ、或は非とされねばならぬといふことは何といふ不快なことでせう。

私は各國民が今日（又は今日まで）他國との關係に就いて考へてゐる事は或は大きな問違ひ――人類の不平を持ち來すところ――のあることを思はずにはゐられません。

ハーディング氏の提議を聞くや我が國民は先づ第一に何を思つたでせう、それは此提議の裏面にいかなる利己的動機が潜むかといふことはなかつたでせうか。自國の利益のために我に加へるところの壓迫干渉と見ての疑惧、警戒ではなかつたでせうか。と言つて私は彼國の態度を所謂正義人道にのみ立脚した公明正大なもので、そこに寸毫も不純な利己心を交へてゐないなどと信じやうとするものではありません。併しこれをもつて只々日本壓迫策とのみ見るところの見方は少くともこの問題に對する見方の總てでせうか。又これは我が國を利するところの、同時に人類に幸するところの見方でせうか。私にはさうは思へません。

御覽なさい、太平洋を中心とする日英米三國の海軍々備の競爭は今日俺ふべからざる事實であつて、將來世界の平和は再びこゝから破綻を生じやしまいかといふ一種不安、脅威は今や人類の心に或る陰影を投げかけてゐるではありませんか。この時に於て問題の中心點である太平洋に關する國際會議を開き、併せて軍備縮少の三協定もしやうとすることは、その眞の動機が那邊に存するに拘はらず、現在人類が切に要求しつゝあるところの最も好ましき企圖たることはあまりに明であつて何人もこれを否定することは出來ないでせう。

私は我が國民が我に對する彼の壓迫策とのみ見て騒ぎたてる代りに、世界の平和、人類の幸福を齎すものとして大に歡迎し、この際我を軍國主義侵畧主義の國と見る列國の誤解を一掃すると共に、列國をして、——わけても日英米の三國をして獨隘なる國家的利己心にのみ囚はれることなく、人類の祈願に十分耳傾けしめるやう、そして過去に於ける幾度かの軍備縮少會議の失敗を又も繰り返すことなく、今度こそは、この問題に關する（少くとも太平洋に於ける海軍々備縮少に關して丈なりとも）徹底的な同時に具體的な協定を遂げしめ人類の心から來らんとする戰爭の不安、脅威を除去することに努むべきだと思ひます。

かうすることは所謂我が國難を轉じて人類の幸福となす道であるのは勿論、これは又我が國の利益とも必ずしも矛盾するものでないばかりか、結局關係諸國相互を利するものであることを私は信じやうと思ひます。

友に送る

（花三篇）

伊藤朝子

一、皆んなが花になりました

あなたの爲めに設けられた
大きな机、
その上に置れたダリヤの花、
それは大方
眞赤なダリヤの花だらうと
私は想像してゐます。

（花三篇以下五十四頁に續く）

小兒勞働者に代つて小兒權の復活を要求す（續）

故　遠藤清

かう云へば、經濟學者の中には、それは理想としては眞に結構であるが、獨逸英國等の例を見ても小兒勞働を全廢する事は不可能である事を證明してゐるではないか。假令又勵行出來たとしても現在我國の工業は重に纖緯工業及雜貨工業である。此輸出高は全輸出高の約六割を占めてをり、毎年三億萬圓以上に上つてゐる。さうして此種の工業に從事するものは概して女工と未成年者であつて其内十六歲以下の小兒勞働者が全職工の一割八分五厘餘を占めてゐるのであるから、若し小兒勞働を禁止するとすればこれらの工業の生產能率は甚しく低減し從つて我國輸出貿易の上に多大の損失を生ずるとすれば國家經濟上の重大事ではないかと云ふかもしれません。然しこれは盾の半面しか見ない理窟であります。我國の人口は小兒勞働者の十數萬人を解雇したゝめに勞働者の拂底を感ずる程少數ではないのであります。年々米國其他へ移住する勞働者を內地で需要すれば優に其不足を補ふに足りますのみならず工業主が婦人或は小兒を雇傭する理由は青年勞働者拂底の爲よりも賃銀の低廉である事に原因してゐるのであります。さうして生產能率の上から見てもかう云ふ年少勞働者十數萬人を使役するよりは健康な青年數萬人を使用した方が遙に有效であるに相違ありません。然るに一方に失業に苦しんでゐる多數の青年があり失業問題の起らうとしてゐる今日、又一方には排日勞働者問題が各移民地殖民地に喧傳されてゐる今日內地の工業を小兒勞働者達に讓つて小兒等を精神的肉體的に破壞に導き健康な青年等を强て海外に出稼させる必要がありませうか。且又國家としての立場から見ても、若苗の如き少年少女等を勞働せしめて

多數の小國民を夭折せしめ或は精神上肉體上の敗殘者を作つて次代の國民の生存を貧弱にする事は甚不經濟であります。

假令又物質文明の副産物である生活難が小兒達をして賃銀取りをなすべく餘儀なくさせてゐるのであるとするならば、青年勞働者の勞銀を引上るとか、物價の調節によつて國民生活の安易を計るとかすれば好いのであります。

津村秀松博士は其『社會と經濟』に於て

『且つ又之を勞働者の側より考ふるに、曩に女工に就て述べたるが如く幼少年工の場合に於ても亦現代文明の齎し來る生存競爭の激甚、從て生ずる生活難の増加が、從來の生活程度を維持せんと欲せば、勢ひ一家の收入の増加を計らざるべからざるより、止を得ず一家の子女をして兩親と與に、又は兩親と同じく職を工場に奉せしむるに至れるなり（中略）我國には未だ西洋の如く『子供預り所』の設備なき所多ければ、父母又は兄姉たるものは、其の兒若しくは弟妹を伴ふにあらずんば、工場に勞働に從事する事能はざるが如き家庭の事情もありて自ら幼少年工を増加せしむることあれば未だ遽に之に向つて嚴峻なる壓迫を加ふべきにあらず』と書いて寧幼少年職工の出現を是認してをります。又

『斯く言へばとて、吾人は我國の工業が、女工に依る事多く、又幼少年工に待つ事少なからざるを一概に悲觀するものにあらず。又一概に之を否定するものにもあらざるなり。如何なる場合にも、機械を使用する事が必ずしも有利にあらざるが如く、如何なる場合にも成年男工を使用する事が利益に限らざる上に、分業の發達に連れ、機械の應用に伴つて女工又は幼年工が成年男工に代つて勞働に從事し得るに至るは一面現代文明の齎し來るべき自然の變化と稱せらるべき場合もなきにあらざるべく、又我國に於て現在幼少年工を使用する事多き事業は通常內外に於ける營業上の競爭盛んに行はれて收益の割合少き種類のもの多ければ、今俄に之を禁壓せんか、爲に此種の事業の存立の基礎の上に動搖を生せしむるの虞

あるべく、更に又危險の虞れ少なき種類の事業なる限りは斯かる安價なる勞力を使用して生產品の約節を圖り、輸出競爭力を維持せんとする我國工業者の態度たる之れ亦一概に排斥せられざる事情にあるべし」と書いてゐます。私は氏の所謂安價なる勞力即幼少年職工等の勞力使用が生產品の節約を圖る唯一の手段であるとの說には異議のある者であります。何となれば成年者一日の勞銀は假令小兒勞働者の二倍を要するとしても製造能率が小兒勞働者の二倍であつたらば結局損益相償ふものであります。又成年者一日の製造能率が幼少年職工に相等しいと云ふ事はあり得ない事であります。少なくとも成年は幼少年職工の二倍の製造能率を示す事は、體力及智力から云つても不可能ではあるまいと信じます。假に成年者の能率が幼年職工と相等しいとしても單にそれだけの理由を以て幼少年の精神及肉體を破滅に導く事を是認する事は人道の上から見ても不道德な事であります。況んや『子供預り所』の設備がない所が多いからと云ふやうな理由は小兒勞働を是認する理由とするにはあまり輕少であります。要するに津村氏は單に輸出貿易や、物質的經濟の上に目を注いで、精神的不經濟、人間的不經濟を度外してゐるのであります。

勿論我國には、小兒勞働の肉體及精神に及ぼす害惡に就て委しい調査もなく、從つて一般經濟學者達は此方面に注意が到らないのでもありませうが、現に歐米に其例はあるのであります。さうして見れば假令其害惡が歐米の小兒の如く甚しくないにしても小兒の精神上健康上に好結果を齎らさないと云ふ事は確であります。工場衞生の設備や、勞働時間の短縮は、小兒勞働者にとつては無きに勝る程度のものであつて、決して小兒保護の根本的政策でない事は英國其他の例を見れば明瞭であります。本來小兒は米國の『小兒權復活』の三綱領にも宣言してゐる通り働かずして衣食する權利が與へられてゐるのであります。それ故に私は小兒の勞働全廢を主張します。さうして滿十六歲以下のものを此制限中に入れたいのであります。それと同時に小兒の積極的權利としては平等の機會を持つために敎育を受くる權利を

も主張したいのであります。實際我國の義務教育修了の學力では手紙を讀み且書く事も、新聞雜誌を讀む事も困難であります。こんな程度では現代の活社會に立つて何をする事が出來ませう。米國の義務教育は八ヶ年制度ださうでありますが、其學力の程度はほゞ我國の中學卒業に相當してゐます。義務年限を修了すれば兎に角日常生活に不便を感じないだけの素養は得るのであります。然るに我國の義務的教育は辛ふじて假名を綴り得るに過ぎません。我國がどんな政體を執つてゐるか、國民としてどんな義務を持ち又どんな權利が與へられてゐるかも知らないのであります。これでどうして文明國民の一員として國家に貢獻し得られませうか。總ての國民が學者にならない迄も、少なくとも文明國民として其日常生活に不便を感じないだけの素養は與へなければなりません。

故に私は學課の內容を現在のものよりは一層高め、義務教育を少なくとも八ヶ年に延長し政治治律經濟の一端をも學課の中に加へる事を希望します。さうして尙それ以上に高等教育修學の希望があり、然も兩親或は保護者が其負擔に堪えない境遇にある子弟に對しては政府はそれらの少年少女に適當の補助を與へて修學の途を開いて欲しいのであります。現在我國にある官費學校は其範圍も狹く且餘りに束縛的であります。私の云ふ意味はもつと自由にもつと廣く教育を解放して欲しいのであります。我國の現在の情況では高等教育を受けるものは有產者の子弟でなければ不可能なやうな組織になつてゐます。故に高等教育修學の希望を抱いてゐても、兩親や保護者の境遇が不如意であるために、進んで高等教育を受ける事が出來ず、有爲な天賦を持ちながら、空しく一勞働者として終らんとしてゐる不幸な青年男女が多々あるのであります。かう云ふ事は、國家の人物經濟の上から見ても眞に惜しむべき事であります（これは小兒權復活の條件としては少しく延長でありますが未成年者全體を小兒として見ても大した差支はあるまいと思ひますから、小兒權復活に關聯したものとして此機會に附言して置きます）それ故に私は小兒天與の權利を平等に享有せしめると云ふ立場からも、國家の人物經濟の上からも、教育の開放

卽教育の民衆化を是非實行して欲しいのであります。これは特に爲政者に向つて希望します。

最後に尙一つ小兒權復活のために母親達に提議したい條件があります。それは家庭内に祖父母又は父親或は小兒のために適當な保護者がない場合には、母親は小兒が學齡に達するまでは、家庭を離れて每日出勤するやうな職業に從事しない事であります。これは家庭の經濟狀態——假令ば夫の勞銀が家族全員を扶養するに不足な場合——によつてはかなり無理な注文でありますが、幼兒にとつては身體の營養と共に精神の營養卽暖かい愛が是非必要なのであります。身體の營養ばかりで精神の營養を攝る事の出來ない小兒は又道德的に不具者となる事は世の不良少年少女の實例に見ても明らかな事實であります。實に母親の愛は幼兒にとつては直接に日々の精神の營養であります。恰植物が土の營養のみで太陽の暖光なき所には完全に發育しないやうなものであります。從つて母親の愛に日々浴し得ると得ないとは其小兒の幸不幸の分るゝ點であります。少なくとも母親に代る愛情を持つた祖父母か長年の兄姉でもあつて保護されてゐるならばまだしもですが、さうでなければ幼兒は全く太陽の暖光のない椽の下に置かれた植物のやうなものになります。

現今文明諸國に行はれゐる小兒預り所制度は、日々勞働に出なければならない共稼夫婦達にとつては眞に便利な設備でありますが、小兒の側から見るとかなり不幸な事實が擧つてをります。然しこれは尊當然な事であります。何故なればそれらの世話人達は小兒等に身體の營養は與へるでありませうが、それと同時に小兒の生活に缺くべからざる靈の營養の給與が不足しゐるからであります。それ故に母親達は小兒の幸福のために私が前に揭げたやうな條件卽家庭內に祖父母或はそれと同樣な保護者のない場合には小兒が學齡に達する迄は家庭外に於てする勞働に從事する事を廢して欲しいのであります。

資本制度の結果として、家內產業の衰退した今日、家庭內で小兒を保育しながら生活の料としての職業を執る事は事實困難には相違ありません。所謂婦人の內職が何れも勞銀の安い手間暇に合はないもの

である限り私の此提議はさうした母親達には無理な注文にも聞えませう。然し母親さしては小兒保育と云ふ神聖な天職のために又正しい意味の保育とは、小兒の肉體は勿論靈魂をも育てる事でありますから假令それがどんなにつらい犧牲でありませうとも、母と云ふ神聖なる天職のために、學齡にも達しない幼兒を持つた母親は、私の提議を實行さるゝ事を、小兒權復活の一條件として母親たる人に切言いたします。

私は小兒權復活の條件を尙一度繰り返します。

一、十六歲未滿の小兒の勞働を全廢する事。

二、義務敎育を八ヶ年に延長し、法律、政治、經濟の一端を學課の中に加ふる事。生活困難のために、高等敎育志望を捨てやうとする少年少女に、政府は適當なる補助を與へて修學の途を開く事。

三、家庭內に祖父母、或は兄姉等の善意の保護者なき場合、學齡未滿の幼兒ある母親の家外勞働に從事するを禁ずる事。但し母親が家外勞働に從事せざれば衣食する能はざる情況にある場合には、政府は其母子に補助費を與ふる事。

(大正八年六月末稿)

噫! 彼れは祝福されたり

噫! 逃れ出でたる彼は祝福されたり——
愛は 彼れの籠の入口を開きたり、
もはやかへることなし
彼れや再び罪と悲哀の對象たることなし。

カアペンタア

青草

高安やす子

離(さか)り來て深き孤獨にしたしめり
　人なき小野の小草とわれと

陽をすひてのびゆく草ののびてゆく
　呼吸はも聞こゆ野にひとり居れば

のびてゆく野の青草をなつかしみ
　ひとりしみ〴〵坐りけるかな

草とわが外光の中に親しめり
　生(いき)の命のいとしさおぼえ

草の上にわが影はおちわがかげに
　かげりたる草の色のなつかし

草の上に坐りて久したちのぼる
　草のいきれの涙をさそふ

草いきれわれの心をあたゝめぬ
　暗きかげさす冷たき胸を

明らかに潮(さ)しくるいのち感じつゝ
　微風にゆるゝ小草みてをり

大空に渦巻き上る草の香に
もゆる生命の歌をきく哉

風ふけば小さき草の一つ／＼
葉末ふるへて何かおもへる

青草の新らしき香を吸ひ入れぬ
かゞやく春の大氣の中に

地の上にたしかなる根をおろす草
いのちみなぎる其おごそかさ

血のめぐるわが手みつめて坐してあり
草場の春の外光の中に

草いきれ土の匂に交りつゝ
やさしく胸を沁み透しけり

わが心みつめてあればあはれみの
泉のごとくわきも來るかな

あはれみと親しさをもて胸は今
洪水のごとあふれんとする

あはれみの胸一杯に擴がれば
春の地上の輝きに充つ

（大正十年七月）

海内婦人界

■婦人問題研究會　去る一日丸の内中央亭に婦人問題研究會開會、慶大教授高橋誠一郎氏の「婦人解放並に從屬の哲理」の講演があつた。

■國語調査會　森鷗外博士を會長とし、有島武郎氏島崎藤村氏德富蘇峰氏其他官吏學者委員に任命せられた。

■保井女史科學奬勵費を受く　女高師教授保井この子女史は、女史が米國留學以來研究を續けつゝある「日本產各種石炭の構造研究」を完成せしむる爲め、今回文部省より科學研究奬勵費を受けた。

■職業婦人の休養所　神田北神保町基督教女子青年會にては薄給なる職業婦人休養の目的にて鎌倉峯ヶ島藤井別莊に職業婦人夏期休養所を設け去月廿六日より仕事を開始自炊生活にて一日實費六七十錢の由。

■田淵女史倫敦へ　昨年九月瑞西ジェネヴァに開かれたる第一回萬國赤十字社總會の「公衆衛生看護婦規定」により各國赤十字社は年一回代表看護婦を派遣することゝなり我國よりは岡山支部看護婦長田淵マサ子氏七月中渡英倫敦に於ける其の講習會に出席。

■表彰されたる二女史　東京市教育會にては去る二日神田一つ橋高等小學校に總會を開き續いて教育功績者六名に對する表彰式を行ひたるがうち後永すみ氏千葉ひで氏二名の女性あり後永氏は小學校女學校に教鞭をとること前後二十七年千葉氏は二十四年間幼稚園教育に盡力したり

■榮子記念の寄附金　濱田家にては亡き榮子の記念として金二千圓を廓淸會と婦人矯風會とに寄附したが之に付き廓淸會は約三十萬枚のパンフレットを作り之を全國各青年に散じて廢娼に關する意見を徵し矯風會は各方面婦人間に男女貞操の思想を宣傳する費用に充つる豫定である

■婦人海の旅會　京橋疊町一東京社にては婦人に海事思想普及の目的にて第二回婦人海の旅會を催す△旅程七月二十二日午前十時太洋丸にて横濱出帆翌二十三日午前十時神戸着△會費二十二圓、十二歳以下は十二圓△申込七月十五日迄

■市川房枝女史渡米　市川房枝女史は二十九日午後三時横濱出帆の鹿島丸にていよ〱渡米された。新婦人協會の幹部その他記者や知人等多數の見送り人が多數あつた。

■ラッセル博士來朝　英國の世界的哲學者にしてまた熱烈なる社會改造論者バートランド・ラッセル氏は　病後の體軀を愛人ブラック孃及び同行のパワー孃に助けられて北京より神戸に上陸、賀川氏等の社會主義者に迎へられ、京都奈良を觀光して二十四日入京、二十八日慶應義塾の講堂にて一場の講演を試み、國際共產社會の到來せざるべからざるを說き三十日エムエシア號にて米國に向つて出發した。

■神戸勞働爭議　神戸に於ける勞働爭議は七月初め川崎造船所職工の大罷業となり十二日には賀川豐彦等により工場管理の議決まで見たが、ついで三菱造船所その他小工場にも波及して日本未曾有の大示威運動が行はれ、今以て解決の緒につかない。之に對し內務省は不干涉主義をとつて來たが、二十九日には警官隊と大衝突して流血の慘を演じ、同夜縣司揮官賀川氏以下幹部二百數十名が悉く騷擾罪の名に依つて拘束され屋外集會や代表者十名以上に亘る神社參拜を禁止された。川崎三菱兩造船所聯合職工團は、三十日にも禁を犯して和田宮神社に續々集合しその數七千に及び、行列を開始して再び警官隊と衝突し、前日同樣警官は拔劍して負傷者を出した。茲に至つて內相は、斷乎たる處置をとることに決したさか傳へられる。

海外婦人界

■私生兒と母親の爲に　倫敦の婦人評會議は私生兒議案に賛同しそれが短時日内に法律となされん事を期待す。同議案は女子が男子に請求する所の養育費を徴收する集金吏を任定し、又支拂はるべき金額をも規定し、其上母親が父親と結婚すると同時にその小兒は正當の子と認むるといふのである。

該議案は要求の全部を滿すものでは決してないが要求の幾分かは確に充されると賛成され或は鐵道婦人組合代表員ホップス女史は該議案は楔の尖端に過ぎないである私生兒は嫡子と同等の機會を持ち得べき私生兒には彼等には何等の罪なくして苦しみを受ければならぬ理由は存在しない筈であると述べこの議案は滿場一致を以て可決された。

■婦人地方長官　フイリップス氏動議して曰く當會議は勞働者の意見を代表し其生活を理解する婦人長官の必要を認めるが故に勞働者の婦人代表者は各州長官任命に關し大法官の顧問官會議に贊與すべき事を主張すと、然して委員をして各地方に於て强要せしめん事を決意せり、

コナルン女史は次に動議して、曰く、婦人の（a）知安判事代理に任定せられたるもの（b）長官を委託せられたるもの（c）陪審官を命ぜられたるものは或種の犯罪は婦人の考案に不適當なりとの理由に依りその任務遂行に限定を受くべきにあらず、性の別は任務の遂行、市民の責任に何等の差異を及ぼす者にあらざる事を婦人に認めしむべきなりと、この說に賛成して　ギノイス女史曰く婦人が法廷を去らざるべからざる事件ありまた婦人が鑿穿すべからざる證據ありと認むる事は尙能ある婦人の裁判官辯護士となる事を一層困難ならしむる事なりと、

■性の均等　マリコン女史動機して曰く婦人勞働會議は單に婦人が男子と均等の條件を以て參政權を得るといふ事を努力するに止まらず更に婦人は自己の適當なりと認むるすべての種類の職業に從事するを許さるべきなり、然して健康上の理由をのぞく外男子にも同等に適用せざるところの一切の法律習慣の干涉を受くべからずまた　トレードユニオンの制定にかゝる賃銀によるべからずと、

■母親に對する扶助一九二〇年政府が勞働者の妻の扶助企案の條件にしたがつて子を扶養する婦人に對する扶助法を速に確定する事を强要す

更に勞働會に對しては同提案にかゝると ころの母親と出生前後の小兒に對する給與、十四歲以上の學生に對する扶育料及手當等について詳細な說明を與ふると共に從來の母親と子供のための計畫につきての調査及新議案と夫等の關係並びに一般社會に對する影響を考査する事を要求す。

勞働會議案は又離別せられた妻も寡婦同樣の支給を受くべき事夫が病氣なる時妻は夫と子供との保養のために相當の手當を得べき事も提議してゐるフード夫人は母親の問題を詳說し、而してすべての母親に對する國家の扶助を以て正當の組織なりと斷定した。

又他は寡婦扶助料を得る事は寡婦がかの盲人の如くにロンドンに繰り込まぬうちは解決困難ならんと云はれてゐる。

投書欄

會員諸氏の奮起を望む

横濱　積　芝　蘭

長い間の習慣上、止むを得ないとは云へ日本の女性はあまりに引つ込み思案である。謙譲とか、從順とか時にこそ依れである。女らうしさの定義を變更すべき現代に於ては、婦德の一つと思惟して、何事にも引つ込み思案は考へものである。口には可なり新らしいの自覺のと、氣を吐いて居るものでも、いざ實行となると躊躇逡巡して居る連中が多い。今度私は會員を勸誘してつくぐ感じさせられた事は、第一臆病風に犯されて居る人の多い事であつた。相當の教育もあり、平生は新思想がどうの斯うの云つて居る人達でも、他人の思惑を考へたりして「私などはさても」とか「良人が嫌ひますから」とか、何とか誠に體のいゝ事を云つて斷つて居る。中で一番驚かされたのは「私はそう云ふことは大嫌ひです」と云つた婦人があつた事だつた。私は彼女が同じ女性であり相當教育もある者の言葉としては餘りに無自覺なので、協會の主張をどう間違へて、斯う云ふ言を平氣で云はれたかと　怪しみながら再び細々と協會の綱領を說いて、主義主張の如何なるものかを闡明して見た。そして私達婦人が今、奮起せねばならぬ機である事も說いて聞かせた。が然し、彼女には判らなかつた。否判つても牛ば感情的に「新らしい婦人達の仲間入りをして、社會の嘲笑の的となるのも厭ですし、又夫に對しても入會は出來ない」と、私は斯かる婦人に貴重な時間を費して說得して居たのを惜しむだのであつた。

彼女は某高等女學校を卒業し、相當の年齡にもなり、高等教育を受けた男子を夫に持つて居る婦人である。其人の口から斯くの如き言を聞かされやうとは、思ひも及ばぬ事であつた。然し彼女も遠からず自己の不明を悟る時が來るであらうと私は思つて居る。

一體どんな事を成すにも、周圍の者や世間への手前ばかり氣兼ねして、其の鼻息を覗つて居る樣では、到底成功は難づかしい者である。況や舊思想に反抗し、婦人として、母としての權利を獲得せんとするが如き運動に於てをやである。

婦人自身が、かゝる有樣であるならば何時まで經つても奴隷的生活より脫する事は困難である。此際正しき義務と權利の遂行の爲、使命を負ひて呱々の聲をあげたのが、我新婦人協會である。今こそ齡僅に二歲なれど、將來は天晴雄飛せしめんものと、理想は高く、抱負は大に、同志の者がはぐみ育て、居るのである。斯くの如き風浪荒き社會に於て、この幼きものを健全に成長させんものと、守り育て、行く事は竝大抵の業ではない。此協會をして健全に成長さすかさゝぬかは、一つに會員諸氏の努力如何にあると云ふも過言ではないのである。一とたび會員と成つた以上、たとへ如何なる事が有らうとも、起らうとも、物ともせず勇猛邁進する底の、勇氣と覺悟があつて欲しいと思ふ。

人が正義の道をゆくに何の遠慮がいらう？　私達は堅忍不拔の精神をもつて、大いに戰ひ、大いに進まなければならない。さうして會員たる者は、單に會費を納めてさへ居れば事足れりとせず、會の安危は我安危位ひの責任觀念を持つて、もつと熱心に、最つと眞劍になり、研究會や懇親會などにも出來る限り集會して會員相互の親睦を計り、精神的に堅く〱團結して、其の實蹟をあげて行きたいと思ふのである。

終りに一言附加するのは、諸氏も知らる、通り、協會は現狀維持に就て、經濟上可なり困難の狀態にあるので、精力の大部分をそれが爲費やされば成らぬ有樣である。此際心ある諸氏は、單に協會のためのみならず、廣く同情の爲、社會の爲、一人でも會員の增加を計ると共に、一時も早く物質的に安定を得らるゝやう努力せられん事を、切つに切つに望んで止まぬ次第である。

富山新報記者足下に

——「新婦人協會の末路」を讀みて

富山　蘭　澄子

私は今堪へられぬ憤激にカツトさせられました。

主筆足下よ　私はあなたが新婦人協會機關雜誌「女性同盟」の創刊號から御通讀なさつてゐらつしやるかどうかをお伺ひし

たいのです、餘りに皮想的な觀察さ、事實と相去ること遠き事項を堂々と「言論」と銘打つてお述べになつてゐる足下の爲めに私は深く悲しむものです。かうした無理解な男性さ・それら男性に依つて虐げられつゝある、現代女性の地位さなどんなにか呪つてゐる事でせう。

主筆足下よ、らいてう女史一個人的行爲を擧げて「新婦人協會」なるものを云々なさるはチト眞目に抵觸せないでせうか。如何に新婦人協會が識者間に多大の援助と期待とをもたれつゝあるかはいふまでもない事です。

「妻たるべき者の務めを忘れて家を外に飛びまはつてゐる我が富山新婦人」と承つては、啞然たらざるを得ません。一體「女性同盟」を手にしてゐる女性は吾が縣下に幾何でせうか恐らくまだ曉天の星ほどしかなからうと思惟します。一事以て吾が縣下婦人界を推すべしです。賣名と自家廣告とに憂身をやつす彼等一派の婦人、この協會の憫れむべき末路に對してそれはたゞ何を學ばんとするか一に至つては云ふべきを知りません。願はくば何者かを求めて止まぬ吾等女性の行路を阻止する事を止めていたゞきたいものです。

橫濱に於る講演會を聴き且つ女性同盟を讀んで

橫濱　眞一生

自分は何等の教養ある者でもなく、所謂新しい主者思想に理解ある者でもない。然し諸姉の主張さるる處は正に眞理である。現代の社會及男性に對して餘りに當然過る理の要求である、と信ずる。過日の講演會に際して特に此の感を深うした。けれども何故此の當然過る程の要求が世間一般に、「女の生意氣」として冷笑されて受納れられぬのだらうか、元より世間の大部分が因襲に囚はれた頑迷者流である事もその原因であらう。然し又目覺めたる女性ーにも男一面の不安あるが爲ではなからうか、後子に對しての正々堂々の戦に毎時も最ずの士依除に於ても一息踏張らうさはせは自ら降ろ事はないでおらふか。自分議大部分の影子が、さではど〈な立派なま論を吐いても身體のへ一度征服してし悧へば一さ云ふ海髯面言な以〃て女子を否笑して中にも一今の眞理のある事は男めぬ事と思ふ、自分は諸姉が不退轉の勇を以つて此の社會と戦はれつゝある事を祝福すると同時に、世間の婦女をして戦の庭に送る前に、もつと「強き女、弱點なき女、正しき女」にまで指導せられん事を希望するだけだし完き女に非でして、さうして正々堂々の議論を眞行し得らしやうぞ。

あの日の聴衆中若き姉人達がはたして講演の全部を理解し歸たであらうか。自分は多少疑なきを得ぬ。

諸姉は今は試論の時ではなく實行の時である。一さ言はにる。けれども今の女學生事務員其他の若き女性は、はたしてそれ程迄に努めてゐるだらうか、自分は、此の際抽象的の議論よりももつと實際に觸れた平易な事から説き及ぼして彼女達の胸に徐に芽生へた、若き、はず生へ人とするものを、守り育てた方が良くはないかと思ふ。此の事は殊に女性同盟を讀んで深く感ずる。同誌の標語として女學生たると、事務員たると娘たるとを問はず廣く女性の必讀の書とする以上殊に然りと思ふ。高級なる雜誌とは必ずしも深遠の理想、難解の議論を説くのみではあるまいと思ふ。或はあの位の話が判らぬ樣では駄目だと云はれるかも知れぬが日本現代の女性一般がそれ程迄に進歩してるとは思へない。

此の點に就いては、女性の觀た婦人と男性の觀た婦人とその見解に多少の差があるかも知れぬ。只自分の思つたまゝを記しておく。

次に當日講演の實際に就いて思い付いた事を申上る。

受付に居た人達、多くは男子であつたと思ふ一が、講演中に高聲で雜談するので後方で聴く者はその聲に妨げられて、少しも判らず非常に不愉快であつた。女子の聲はよく徹るとは云ひながら、一體に男子よりも小さい。今後は殊に此の點に注意して折角の講演が隅から隅まで聞へる樣にして欲しい。片隅にたゝたまゝの聴衆は眞に熱心な者が多いのであるから二三の不眞面目な野次のゐたのは實に恥しい次第である。あんな奴は會衆でつまみ出してしまふか、默殺するより仕方がない。あの際講演者も多少野次を相手になつた樣であるが、あれは止めた方が立派であつたと思ふ。

聴衆中の男子の多くは好奇心から來たものであつた、然し彼等はかなり痛い處を突かれてゐる。私はあの講演がある意味に於て不良老青年の刺激劇となつた事を喜ぶ。多くの男子は不眞面目であつた。然し若い男子の中には頗る眞劍な者も少くはなかつた。自分は諸姉が、所謂「酒と女にすれからした」一不良老青年よりも未だ何も知らぬ此の純な而も熱情ある若人に多少の希望を抱いても良いと思ふ。若人は今眞面目に生活に對して考へてゐる。

人格價値の問題

宮崎龍介

婦人から云へば男子は正に特權階級である。今日の社會制度は人間として婦人を男子と同時に見てゐない。法律に於ても慣習に於ても乃至は道德に於ても婦人には男子と同等の人格價値を認てゐない。それは新婦人協會や其他の婦人運動をやつてゐられる女性達の高唱してゐられる通りである

勿論婦人と男子とはその能力に就ては先天的の差別があるが、然しその能力自體に優劣を付くべきものではない。如何となれば社會構成の識責に於ては男子も婦人も同等の地位を占めてゐるからである。婦人ばかりあつても人類社會は成立たないと同樣に男子ばかりあつても人類は存在し得ない。人類を一臺の車に例へるならば男子と婦人とは正に車の兩輪の如きものだと云へる。從つて此の兩者の存在は同等の擴大と步調とを持たねばならぬ。さもなければ人類と云ふ車臺は正當な運行をなすことが出來ぬのみならず若し兩者の意志が互に相反對する場合があれば社會は遂に破滅しなければならなくなる。ベエベルの如きは「婦人は束縛に陷つた最初の人間である。婦人は男子の奴隷が存在する前に既に奴隷であつた」と云ひ尚ほ語を次いで「凡ての社會的從屬と壓迫とはその根底を壓迫者に對する被壓迫者の經濟的從屬に存してゐる」と主張してゐる。即ちベエベルに從へば婦人は勞働者と同じく經濟的獨立の保證をさへすれば完全な人格權を主張することが出來ると云ふことになる。然し兩性の問題は單なる經濟的關係の問題ではなく、もう一層人性味をもつた、より以上の社會的深みを疊んだ問題である。此點になるとベエベルよりも寧ろカアペンタアの方が眞髓を掴んでゐる。彼は曰ふ「饑餓の問題に次で性の問題は最も原始的なそして權威ある吾々の要求で

あることは疑ひなきところである。而して近代の文明の生活に於ては性の問題は饑餓の問題よりも一層自覺に這入りつゝある」と。

云ふ迄もなく婦人問題を確立する爲めには經濟保證も一つの要素には相異あるまい。然し問題は事實上、より以上の重大な要素の上に立つてゐることを知らねばならぬ。その重大な要素とは何であるか？それは多言するまでも無く人格の獨立と云ふことである。即ち婦人は人格の同等を認められ且つ人格の自由を是認さる可きである。

元來兩性間の問題は常に人格と人格との問題であつて決して財產と財產との問題ではない。今日のような物質萬能の世界の中にあつては尊い人格と人格との問題も亦物質化されて了つてゐる。それは單に兩性間の問題ばかりで無く殆んど世相の凡てが物質の支配を受けてゐると云つてもよい。唯物史觀は人間生活の全部を規則付けてゐる法則ではなくして、それはたゞ經濟生活に對する原則に過ぎない。從つて兩性間の問題の如き人性本然の事態に對してはそれは何等の權威も無いわけになる。問題の凡てが、否兩性の問題までが經濟關係の對照とされ、形而下の基礎の上に置かれようとしつゝあるのは、これまで婦人の人格的自覺が不充分であつたが爲めに、婦人自身の方からも、又男子の方からも知らず識らずこの中に釀された錯誤の發露に外ならないのである。

婦人解放の叫びは、勞働者解放のそれとは異つて、どうしても人格解放の出發點より發したものでなければならぬ。而して其反面には絕えず婦人自體の社會的職責を忘却せざるよう周到な注意が與へられてゐなければならない。尙ほ又此の問題は勞働者解放のそれのごとく勞働者のみの力で解決すべき問題でなくして、兩性が共に反省努力の結果解決す可き性質の事柄ではないかと考へられる。而も解放の機運は常に解放さる可き地位に立つ人々の絕叫なり運動なりによつて促進さる可きであつて、それは抑壓者の側から能動的に行はれた類例は殆んど皆無である。宇內情勢は今尙ほ婦人運動に就ては到るところ處女地ならざるはい。從つてその解決を見るまでには賢明なる先驅者諸姉の自覺ある努力に俟つ外は無いのである。

解放の輪廓

佐々木伊都子

社會の自然發達史の上から觀察すると原始時代に於ては男女平等で一定の結婚がなく、亂婚狀態であつたから何人が夫であり、妻であつたか定まらない丁度獸類に等しかつた時代である、即ち個々の人格が現はれてゐない、學者は男女平等的地位にあつたといつてゐるが寧ろ平等といふ詞で云ふより、生活即性慾と見るべき時代でたゞ區別上平等の時代である。

婦人が男子より權力をもつた時代がある、是は第二期の事で、かつて平塚氏が「原始女性は太陽なり」といはれた時代の事であるが發達史上から見ると原始ではない即ち婦人が一家の全權を握つてゐた時で母權時代といはれてゐたものであるこゝで私達の忘れてならない事はこの母權時代なるものは何も現代の私達が婦人の自覺によつて考へられたものでないから決してたのもしいものではないこのわけは一妻多夫が行はれた爲に子女の父は不明で母權は母に屬したから母は蜂の世界に於ける女皇の格であつた、男子が他の種屬若しくは他の女のもとに通つて夫婦關係をした習慣や女子が父の母許しをうけて自分の好きな男子をその家族内に一定の期間だけ夫として同棲した習慣などから家つきの女子は居候たる夫の男子よりは權力があつたわけである、日本の諺に「こぬか三合持つたら婿になるな」とあるが一寸そんな調子なのである。

然し生活の關係上生産能力の勝つたものは權力を得るのでついに女子が男子の家庭に嫁入りする樣になつたのであるこゝで男子に權力がうつゝたと見ていゝ、奪掠結婚、購買結婚が生れるに從て

益々男子に權力がうつつた形になつた、蓄妾、若しくは支那の第一夫人、第二夫人などは購買結婚の遺習と見る事が一つの見方であると思ふ。婦人の自由は失はれ家庭にあつては夫の財産となりおかみさんが床の間の置物同様に奥様となり骨董品視せられ奴隷的にされそして祖先崇拜といふ様な宗教を元として家長制度となつて男子は權力者となりすまし、離婚等でも妻を殺したり賣る權利さへ自由に公認せられた、從つて女性觀なるものはきはめて女子を劣等視されてゐた。

在來の女性觀、天照大神を祖先として、女ならでは夜も日も明けぬ日本も儒教、佛教の女子劣等説を輸入するや忽ちそれに化せられた、ギリシャの哲學者プラトーンは男女平等を本質的に認めたが女子は事實に於て男子に服從すべきものと云つた、プリニユウスは女子は月經ある動物なりと罵り、アリストテレスすら女子と奴隷とはわづかに分量上の差に過ぎない例へば女子の資本をもつてする取引は禁せられ、男子が女子に應じた事は凡べて無效とせられたアゼンスに於ては、演劇は教化機關であつたが女性の見物を禁じた、ローマに於ても、スパルタ、ペルシャ、其の他の國々に於ても、凡べて女子は劣等視された。

支那の聖人孔子は、女子と小人は養ひがたしと見、儒者は七去三從の説をもつて婦人は三界に家なしと敎へた、女人は罪障最も深しと釋迦は云つた、キリスト敎は婦人の地位を高めたが、然しその見方はやつぱり婦人は男子の隷屬と見て居るそこで近代婦人解放論者はどんな意味に於て解放論を稱へだしたか、それを一瞥してしるならば、

佛國近代思想の第一人者はルッソーである彼れは自由民見論の宣言者であつたが男女問題に限つては「女子は男子をして樂しましむれば足りる、夫の意志は妻に對して絕對の命令であり、妻は夫の意志に全然屈從しなければならない」といつてゐる、ルラソーの民權論によつて生じたフランス革命、人權宣言は男子のみで婦人は度外視された、

こゝに於てテロアンニユド、メリクール女史は一軍の暴民を率ひてベルサイユ宮殿に、ルイ十六世にせまり、男女同權を强請した、女優ローザー

が出て革命婦人協會といふものを組織して男女平等論を唱へた、當時の大立者はオリンプ、ド、クージ女史で「國家は男女共同の形成したものである立法は一般意志の發表であるから婦人も、男子同樣選擧し代表者を出して立法に參與せしめる權利がある、婦人も處刑臺に上る義務があるなればトリビユーンに上る權利もなくてはならない」と論じたがつひに、斷頭臺上の露と消えた、婦人參政權論者第一の犧牲者である事を記憶してゐなければならない、權力家ナポレオンの出現によつて佛國革命は中途でたほれ、婦人問題も亦鳴をしづめた、社會主義者として平等主義を極端に主張したプルードンは當時「女子は愛すべき動物にして男子の補足物に過ぎない」といつたが彼のサン、シモンは「自由權は婦人にも與ふべきである」と叫び、彼の弟子ジョルジ、サンドは結婚及び家庭問題に於て、婦人の解放を絶叫した、然しサンドの解放なるものは、放縱、無貞操で、一種のデカダンに過ぎなかつた、彼女はイプセンやズーデルマンの思想を、はき違へた女の生活の樣な放縱に過ぎなかつた、ついでに、婦人解放の詞は一八三〇年七月革命の宣言の内に、初めて現はれたと云ふ事を書きそへておく。

英國、佛國のクージ夫人が死刑にされた時に海の彼方の英國には、近世婦人運動者として著明な、マリー、ウォルストン、クラフト女史が現れて「婦權の擁護」を著作し、サンドの先驅をなした、彼女はルッソーを論じて、「ルッソーは自由民權を說きながら婦人に屈服を叫けんだが彼の自由は何を意味するものなるか」と反駁した「婦人は、結婚を目的として教育されたが、それは誤りである、婦人も獨立の人格者として教育されなければならない」と教育問題に這入つたのである、一八六七年ジユン、スチユーワド、ミルは「租税を拂ひ、相等の資格ある婦人に選擧權を與へない事は不都合の事だ」として女子の選擧權獲得の請願を議會に取りついだ、六九年にはの彼の名著「女子の解放」が出版された、マルクスの資本論は近世社會主義者の經典であり、ミルのこの書は婦人運動者の聖書であるといはれた、ミルはクージ夫人と同じくそ

の骨子とする所に人間は自由の權利を有するといふ根本議論より出發して不法なる屈服より解放するのが當然だと云つた、ミルと意見を同じくする人に、マリオン女史のあつた事を忘れてはならない。

米國、合衆國は婦人に選擧權を與へてゐたが千七百八十七年憲法として婦人選擧權を規定せんとしてその諾否を各洲に一任したが其の結果は選擧權を與へないといふ事になつた、四十五年後奴隷廢止運動がボストンに起きた時婦人問題が起きたが無智な宗教家達が妻は夫に從屬すべきものといふ事が聖書にあるといつて反對した。

獨逸では獨逸の哲學は其の顏の如く頑固であるから自由平等などは思いもよらない、獨逸はどこまでもその點に於てさへ軍國主義であつたのである、彼のショーペンハウエルは現實の世界は惡しき世界である苦痛より、まぬかれんとするなれば個性を破棄し意志を否定し現實を超越したイデアの世界に這入りこまなければならないと。この哲學者は一種の宿命論者である故に婦人の見方でも當然惡罵をあびせたわけである、ショッペンハウエルの流れを汲んだ權力意志の哲學者ニイチエは彼の哲學から云へば、當然劣視すべきであるが事實は非常に婦人を尊敬した、千八百四十年ルイゼオットーが婦人解放を叫んでペーテルスといふ男と結婚したが法律上の結婚の手續を拒んだ、彼等によれば結婚を以つて男女の自由な結合たらしめやうとする主張であつたこの說は明らかにわかりきつた問題である、結婚の本質的原則に於てはたしかにそうでなければならないが、人間が社會をなしてゐる事を考へたならばこの思想は社會的立場にある公人として眞意を缺いてゐるといふ事を考へなければならない、

スウエーデンに、エレン、ケイあり、ノールウエーは彼の有名なイブセンを出したがイブセンの考へは人間に歸るといふ以外に何等の價値がないとにかく佛國を中心として起きた婦人問題は婦人に參政權を與へよ然らずんば死を與へよといふ樣な意氣が世界心に共鳴しやがて產業組織の發達上職業問題が起き文化の新機運と共に敎育、權利、

結婚等の問題が起き學者は婦人解放問題をこの四問題にあると分類したのであるがそれは少しく徹底を缺くきらひがある、私は「婦人解放運動は權利獲得を他にしてない」と提言する、敎育、結婚職業の外に政治を加へてこれをことごとく權利獲得の内譯と見るものである。

婦人の開放といふのは、どんな意味に於て知らなければならないか、男女は精神活動の上では同一であるが其の狀態に於ては異つて、云ふまでもなく生理的には男女同等ではない、或る論者はこの事實をとつて女子の解放に反對するけれどもそれは、解放をあまり解してゐるからである。

女子に特有の生理的現象である月經及び姙娠について考へて見れば月經は普通二十八日目毎に起り月經時六日間と見、人生五十年と假に計算し十五歲からあつたとして四十五歲迄三十年間とすれば實に月經期間といふものは六ヶ年の長さにわたつてゐる、月經期は其の期間ばかりでなく其の前後に於ても肉體に多少の障害がある、或學者は月經は一ヶ月を通じて身體に影響する生理的頂上の狀態が外に表はれたに過ぎないとまで云つてゐる加ふるに姙娠、出産がある、すでに性的に同等でないならば精神的に差異のある事も當然の筈でなければならない、男子は分析頭腦が發達して居る時に女子は感情的である、從つて女子には深い意味に於ての記憶がないといはれてゐる、自他を明確に區別し事物を論理的に研究する能力に乏ばしい女子は同情に富むといつてもそれは一種の虛榮であるといはれてゐる、嫉妬深く、淫癖が多い、その最も缺陷としてあげられる點は、熟慮してから斷定するといふ事なしに直覺的、獨斷的に決定を與へてしまふ、極端から極端に走つて非常に恐怖したかと思ふと、安心してみたり、慈悲から殘忍沈默から多辯、といふ根本事は女性研究者、學者達の定言であり、又女性自身も或る點まではこれを認めなければならない。がこの事は決して恥づべき事ではない、なぜなればこうした事は生理的相異から來たきわめて自然的、必然的な事であるからである、私はこの樣に生理的にも精神的にも現代社會に不相應であるから解放が出來ないと

いふ說に對して大いなる反對をもつものである。

　男女不平等は環境によると見たのはミルである彼によれば男女精神上の差異はみな敎育及び境遇の差異から起きたので根本的な差異ではないと、けれどもこれは抽象論であつて、ミルのあやまりである、ルー・ルベーも亦男子の腕力のために弱き腕力の女性はその發達を害されたところに差異が生じたと見たが、これも獨斷的見方である男子同等說では人間は男女にかゝわらずいづれも自由をもつてゐる、目的は人間らしくあるといふのである故に男女は同等であるといふのである、これはきはめて一般的な常識論であつて生物學的見地に立つたものではない。瑞西のフエーリングは男女の差異問題を機能相異から來たものでミルの說の如く敎育、環境によつて後天的人爲的に差別が生じたものではなく、全く生殖其の他の機能によりて生じたものであるといつてゐる、

　こゝにきはめて學術的な女優男劣の說がある、即ちエリスの學說といはれるものである。彼の生物學的見地からなしてゐる議論は大いに私淑をして傾聽せしめるものがある、彼はいふて文化人も動植物も中心となるものは男性でなしに女性である、自然の事業は種族の補足と文明の完成はあるこの事業にもつとも親密なものは女性であると云つてゐる、學者といへば一も二もなく男尊女卑說に傾むく時に生物學上の見地からこうした結論を下し得た事は大いに意義ある點と見ていゝ、ロシヤのシユクル、ヤレウスキーはエリスの說に發足して女性中心說を立てた、進化の本質に於ては男性的生物が本となつて男性的生物は性的根幹に多樣の變化を與へる爲に、現はれたものに過ぎないと生物學的原理の上に立つて動かすべからざる議論をしてゐる、

　以上を論じて見れば、第一生理的障害の爲に解放されるみこみはないかといへば決してそうでない成る程生理的研究によれば女子が劣つてることを承認しなければならないが男性が優性か女性が優性か現代の權力が眞のものか一寸わからないだから、ほんとうの意味に於て女性が劣等だとはいへない筈である、然し現社會の事情から見たら女

性が生理的にも心理的にも劣等だと認められる、ことは止むを得ない事である、けれども學者達が云ふ樣に、それ故に、即ち性は生理的にも心理的にも現代社會に於て解放されるのはまだ日が遠いといふ樣な考へ方は誤りであると思ふ、生物進化の原則から見ても教育の點から見ても劣等性なればこれを解放しなければならない。

第二の形而上學の上から見て人間はみな男女にかゝはらず同等であるが故に今日迄の態度をかへて解放しなければならないといふ事は當然で議論の餘地もない。

第三に生物進化の上から見た女性中心説、若しくは女性説は生物歴史の上から見て眞理であるが故に女性は解放するべきだといふのではない、過去の歴史は如何に女性優性の時代があつたとしても、その爲に女性を解放せよといふのではない、生物の生きんとする意志から見て男性にしても女性にしても、種族の永久性を親國潜在意志によつて解放さるべきは當然であると主張するのである

そこで婦人解放をどう考へなければならないかといふことになる、かつて社會は解放といふ事について過渡期があつた即ちノラやマグダの提出した根本問題……人間に歸らんとする自覺……を放逸な生活、貞操を無視した自由を喜ぶといふ樣なデカダンの生活が婦人の開放だと考へられた時代があつた、こうゆふことは開放の意味をふみ違へたものであつて、社會を害するものであるといふ事を考へねばならぬ。

私は婦人開放はどこまでも人道主義の立場からはづれてはならないと信ずるものである。私達が開放をさけんで女性の權利を主張するならば論者は直ちに法に於ては權利の主張には義務のともなふべき事を云ふ、女子はいろ／＼な點に於て男子程の表面の義務が免せられてある事は事實である然しながら種族の根本である最も偉大な人間を生みつゝあるものは女子である、女子が十ヶ月の間胎育及び出產、幼兒の教育は國家社會に權利を主張する最も大きい義務をはたしてゐるのではないか、經濟の獨立を云々する人間もあるが婦人が家庭に於てする仕事は凡べての點から見て現在の男

性より與へられてゐる『給金』よりは多くの仕事をしてゐるのであつてそれだけで充分に經濟の獨立もなし得てゐる筈ではないか、

私はさきに婦人解放は人道主義でなければならないと云つた、私はこの點から善種學と産兒制限論に對して云つて見たい善種學は理論として大いに傾聽すべきものである、又産兒制限論も然である、けれども人道主義的な立場から見て單に一角より見えない近代盲目的科學の前に、無條件に禮拜したくはない。優越な種族を殘そうとして産兒を制限するのは制限しないよりも社會にとつて危險のともなふものである、産兒制限論を見ると性慾の亂費をつゝしむといふを原則とするならばその一事のみに於てその價値を信ずるのである、産兒制限をするよりも、むしろ多産して優劣は敎育及自然にまかした方がいゝと思ふ、もし産兒のために貧乏するとしたら國家はこれを養ふ義務があり、又我々は國家に對してそれを要求する權利をもつてゐる筈である、今は消極的な産兒制限よりも積極的に國家に對して、『多産』に對しての設備を要求する場合ではあるまいか、生み得る人は生むべきである、生めない人は仕方がない。とにかく義務には大さなければならない、そして權利を獲得しなければならない事を私達は知つてゐる、從つて母性の保護と少年子女の擁護のために婦人も亦政治に參與する必要も起きる國家はこゝに婦人に對して政治を解放しなければならない。

働いても食ふに困るといふ事程馬鹿げきつたことはない。女子である爲に同じ仕事をして同じ能率をあげて居るにかゝはらず賃銀のやすいと云ふ事は、不道理である、時間の短縮出産前後、月經時等に對して充分の靜養を與へ雇ひ主は雇ひ主根生を解放しなければならない。

要するに女性の解放は女性自身の自覺によつて自由にせらるべき新生命の樹立である。若しもどこまでも道徳的といふ詞を必要とするならば婦人解放は近世社會發見によつて生じた新道徳であると答へたら白頭翁を初めとして禿頭連中の古色蒼然たる頭腦の人々にもこれには意義がないだろうと思ふ。

私達は自由人である……人間として……同時に社會人であり、家庭婦人である故にどこ迄も人道主義者でなければならない。

婦人自身は奥様であり、山の神であり、女中であり、工女である事から自分自身で人間であるといふ事を自分自身に解放しなければならない、いつ迄も大きな帶をしよつて暑い〳〵といふ必要がない、

國家社會及び家庭の權利者である。だんつくは大いに積惡をすてゝ婦人を興味の對照とする事をいゝがげんに切りあげなければならない。

Ｏさんがもし花三篇であつたならダリヤの花、
しかも眞赤なダリヤの花さ私はいつも思つてゐます。
私の家でも皆んなが花になりました。
私の夫は初春に咲く梅の花、
町子は秋咲く黄菊の花、
さし子さんは今、まつさかりの撫子の花、
上田さんも其の名も薫る梅の花、
私は何んの花でしやう？
若き日の私を水仙の名よといつていつくんだ人もある
だが私は水仙の花とは思へない私は私を思ふ時
初冬の野に葉のかげに咲く茶の花をあの茶の花を思ひます。

二、月見草

いつかあなたとあてもなく川崎の町を散歩して
たどりついた玉川のあの叢の月見草、今、炎盛ときゝました。
夢さ現のさかひに開く月見草を思ふ時、
私はあなたを思ひます

三、お前の父さんダリヤの花

私の作つた今日の詩は皆んなダリヤの子供です。
せゝ私の可愛いゝ子供等よ、お前の父さんは
あの大きな机の上眞紅なダリヤの花ですよ。

（十年七月四日）

獨言

長谷川初音

□

賀川様の發案で購買組合を起さうとしました時長谷川も發起人の一人であつた關係上私も組合員募集の爲め、チョイ〳〵家庭訪問をしたものですが、其節奥様にブッツカルと大抵版で押した様に『私ではよく解りかねますからいづれ主人とも相談の上で』との御返事なのに全く異な思ひが致しました。

□

婦人はハウスキーパーであればよい、社會との交渉がどうの斯うのと出娑婆られては困る、と云つた風の一般の男子の身勝手な要求を眞に受けて自分から家の奥の方へスッコンで終つた結果は、時代に應じてハウスキーパーの腕前を見せて行く事さへ出來なくなりました。何と云ふ皮肉でせう。

□

私はいつでも夫婦の仕事は合意上の分業でなければならないと思つて居ります、從つて自分の自分担に對しては十分の興味を有し十二分の努力を盡し兎に角最善と信ずる結果を齎らさなければ卑怯だと信じて居ります。

□

不便な、まはり遠い、時間つぶしな、間のぬけた、時代晩れな、遣り方を繰り返して何も考へずただバタ〳〵バタ〳〵とバタック丈で今日も暮れた、明日も暮れた日を消してゐて、それで心から

不平のない人がありませうか、眞に生活をエンジヨーイし得る人がありませうか？

□

私たちは何の仕事に從事しても、かまひませんけれども器械になりたくない、奴隷になりたくない、ただ人間らしく、人間らしく生きて行きたいために時と金と力との餘裕をどうして作り出さうかと苦心します。

□

主婦の能率た最も要領よくあげてゆく方法は、家庭内の面倒な仕事を一切社會に持出しそこで、さばきをつけ調つたものとして再び家庭内に持ち込む事ではないでせうか

□

電燈が燈されてランプの掃除の手間が助かりました。水道が引かれて水汲みが樂になりました。ガスが來てからは客の顏をみてからお茶の仕度をしても平氣、電話が架つて便が助かり、遞信事務が整つていくたび、私どもが旅しないで濟んでせう。

下水がもつと完全したら蚊張が不要になりませう、道路の修理が整つたら家々の掃除は隨分樂になりませう、軍備が縮少されて國家の教育費が潤澤になれば母は子供の入學驗難に頭を煩はさなくつてもよやなりせうし不良少年を出すことも少くなにませう、購買組合が組織されゝば主婦は買物毎に時と金とを空費する必要がなくなります。

□

與へられた道具をただ其まゝ使つてゐるといふこと丈でも隨意氣のきかない話ですに與へられた道具の使ひ道が解らないときては更に困つたものです。

□

自己の分担にほんとに熱心であれば忠實であれば、そこには必ず何からの發明が伴ふ筈と思ひます、メリヤスは失戀のある男子が自分を裏切つて走つた婦人の器用な編物仕事に打撃を與へたい一心によつて發明されたものとか聞きました。

□

今日迄の婦人の天地は餘りに狹いでした、それ

は男子のみのせいではありません、婦人自らが、躬みを低くしてたゞ男子の意を迎へんために好んで自己の天地を小さくしたあとが十分に見えます、悲しいことです。

ガスだ、水道だ、これらが男子の手によつてのみなつたと云ふ事は可笑しな事です、下水問題、屎尿業問題、道路問題、皆直接家政にありつゝある婦人の解決すべき問題でありますも少し思ひ切つて社會に其足を踏み出さねば婦人は家庭に於ける立場をさへ失はなければなりません。

□

脊負投げを喰はされた格好はよいものではありません。

小品と斷想

小室こし子

病院の廊下

病院の廊下はいつも淋しかつた。春になつて花が咲いても冬の樣に暗く淋しかつた。私は此のくらい寒い病院の門を入る時いつも、如何してこんなものが存在してゐるのだらうと思はずには居られなかつた。

黑くふき込まれた廊下にはいつまでたつても病人は蒼い不幸な顏が絶えなかつた。醫者といふ職を考へて見て私はよく／＼妙なものがあるものだと思ふ。醫者の或者は

「自分達の仕事を職業として見たらこれ程つまらないものはない、まるで犧牲だ」

と言つた。

何れにしても面白い職業があつたものだ。一日の中の大部分は商人と看護婦と年とつた事務の人と、人間らしい男といふ感じのするのは自分達の

白い服のサークルだけなのだ。男の中で仕事をするといふ事が常態な人達が如何してかうした生活に堪へてゆかれるのだらう。私は不思議になつてしまふ。病院の廊下は依然として寒くきたなく淋しい。こゝに並んでゐる顔はみんな病に苛まれて不幸だ。四ケ月程前に此處で見かけた人は大ていゐない。時々古い顔を見る時、「よく今まで我慢して來たものだ」と思ふと一緒に何時までたつても癒らない身體を提げて一體如何するのだらうといふ氣にもなつてしまふ。

此處を通る看護婦でもみんな見慣れない新しい顔だ。彼等はかつて此の病室の一隅に病める身體を横へた一人の若い女が彼等の前にあるも知らないのだ。

彼等の生活は全々流浪だ。

次から次へと彼等の胸に入つて來る人を抱いては束の間につき突されてしまふ樣な運命にあるのだかつてかういふ人もあつたといふ朧げな記憶さへ持つ事が出來ずに新しい人へ新しい人へと移つて行つてしまふ。

私がかつて此の病院に入つてゐた時親しみをもつた受持の先生は二人までゐなくなつてしまつた前の先生は敏感な女性的な人だつたが長い助手の時代から一躍して○○病院の院長になつてしまつた敏感な男性的なもう一人の先生は風のひどく吹く日支那にたつてしまつた。かうして此の淋しい廊下であふ先生は私をしらない人ばつかりだつたそして全くの新顔さへ私の日の答へを如何にも醫者らしく歩いてうるのだ。凡ては流轉する。しないものが退歩する。けれど病に苦しむ不幸な人の多い病院程其の流轉のはげしい所はあるまい。

病院の廊下はやつぱり淋しい。

雨がまだ降りやまない。何となく壓しつけられる樣ないやな空合になつてゐる。私が麻生先生のお宅の所まで來ると男がうぢや／＼としやべつてゐる。何の事だかさつぱりわからない。私はやうやくあそこの川に水が出て足まで漬かつてしまふから駄目ですといふ事がわかつた。

後に居た中年の女があそこの川に水が出てしまつて足のこんな所まで水がひたつてしまふのだと教へてくれた。私はそかでも行つて見たかつたけれど人を疑ふ事が惡いので物足りない思ひをして引き歸して來た。女は

「學校へいらつしやつるのですか」と言つた。私が

「エヽ」

と言ふと

「裏門からいらしたらいゝでせう。それでなければ塘先生のお宅の所からいらつしやればいゝでせうね」私はしつこい親切をくすぐつたく思つて感謝しながら「どうも有がたう御座います」と言つても

「こゝからかういらつしやいませ、もしも駄目だつたら寮舍の裏門からいらつしやいませ」

と「さよなら」と下げた頭の上に浴せて居た。

私はこれ程の人の親切をくすぐつたく思つた事はなかつた。

和泉屋と云ふ大きな酒屋があつた、そこに小さいけちくさい、けれどよく氣のきいた小僧の代りに、可愛い、初心な小僧が來た、私は其の子を可愛いゝいゝ子だと思つた。すると私しが何時かよそから歸つて和泉屋の前を通ると頭の禿げた醜い子が木をゆすぶつて遊んで居た。私は、そんな小僧が居るのだらうか何時來たんだらうかと思つて居るとそれがあにはからんや此の間の小僧だつた禿と小僧、私は妙な氣持になつてしまつた。

私が病院から歸つて來ると一人の車夫の樣な服裝をした男が茶色の毛の大きな犬の背におしげなく自分の顏をうづめてゐた。犬も大人しくだまつてゐた側から見ると主從らしい彼等は何とも言はないで春の日のおだやかに照る話にしばらくかうしてゐた。男は思ひ出した樣に顏をあげて

「チャック、俺は忙しいのだ、そしてお前は如何だ」

と言つた。犬は一寸首をのして彼の主人と見た。

けれどだまつてゐた。
春の日のあたゝかく照る下でかうして主従は何時までゐる事だらう。私は露西亞人にでもあつた様な氣がしてしまつた。

人を損けないで生活してゆきたいと思ふ傍から思ひがけない事が案外な所で人を損けるのみならず、其の人の運命やあたりまで暗いかげを投げたといふ事を何處からともなく知つてしまつた時程苦しい事はない。自分が直接の下手人でないと自分一人が頑張つてもそれは何でもない事だ私は其の人の怨みだけでも自分がいゝ生活が出來さうもないとよく思ふ。

間庭

山田美都

廣い芝地の一方に立てられた卷藁を覘らつて十分に引きしぼつた大弓の弦を樂観翁はまた一しきり肩のあたりできゝりと引いて滿を持して居つたが、矢はいつしか弦をはなれて卷藁の中心深くぐさとつき通した。後に控へた書生の、池田は

「御命中で………」

と讃辭をのべたつもりであつたが翁は苦いかほをしたきりで、また第二の矢をつがへた。双手を上段にふりかぶつてついいと左の方に下ろす。更紗模樣鹿皮の被ひをかけた右の手が鎖骨のあたりをすつうと過ぎると右の肩のところへ來てぴたりととまる、そこでまたきり〳〵と引しぼつてひようと放つた。こんどはどうしたものか、矢は卷藁とはづれの方へぶつつりと中つた。しかし翁はさきのよりは我意を得た樣な面持ちであつた。

「矢は必ずしも中らんでもな、姿勢が大切ぢや」

翁が第三の矢をつがへやうとするとき、物しづかな庭下駄の音がして、左手の柴折戸が、すうつとあいた。ふつさりとしたお下げに、描いた樣な眉の、貴子孃が翁のそばに歩みよつて心持ち身をかゞめた

「あのお父樣！　只今、小蘋樣が見えられまして御面會をとでございますが、如何致しませうか。」

「小蘋女史か、よろしい、涼しいところがよからう、東屋にお通し申せ、池田、お前ご案内を、貴子は

御母樣に申上げて何なりおもてなしを」

二人は心得て去つた。翁は、汗を拭うて肌を納め、大弓の道具をとりかたづけて、飛石傳ひに向ふの東屋にはいつた、灰色のマーブルの丸卓子の上に靑磁の甃がおいてあつて白桔梗がすが〳〵しげに活けられてゐた。周りには、涼しげな籐椅子が數脚置かれてある。翁は一つの椅子に身をよせて膝に手を拱いてぢつと眼をつぶつた。少しはなれて繁つてゐる白萩の叢は、花の重みにうなだれたかぼそい枝々が長く〳〵うねつて、蟲が一つ二つぢぢぢいつと、鳴いてゐる。

やがて賑やかな庭下駄の音がして池田は客人の小嶺女史を導いて來た。女史は三十には未だ滿たぬらしいすらりとした美しい女で、心持ちくせのある髮を前わけにして襟もとでふつさりと束ね、黑地に飛び模樣あるお召の單衣に白地に黑の竪獨鈷を織つた虎珀の帶を胸高かに結んでゐた。

「どうぞこちらへ」

「ありがたうございました。」

池田は一揖して去つた。

樂觀翁はこの時初めて眼を開いた。

「おゝ、よく見えられた。さ、それへ」

小嶺女史はしとやかな一禮の後、やをら籐椅子に身をよせた。翁は腰あたりにゆるやかに波うつ白髯を撫でながら、前よりはめつきりとやつれた女史のかほをしげ〳〵と見やりながら、女史の父なる故き友のおもかげをしのびながら維新の際共に國事に狂奔した靑年時代のことをつく〴〵と考へた。

「御老母は健在か？

「ハイ御蔭樣で元氣に暮してをります。」

「善策殿の三年忌も近づいたが、御法會の御用意も忙しからう。」

善策とは小蘋が迎へて間もなく死に別れた聟養子であつた。
「ハイモウ何もかにも簡素に致しますのですから別段のこともなく、それに佛事は母が熱心でございますから一切委せておきます。」
「近頃の御勉學は何ぢやな」
幼い時に父に逝かれ女の手しほに漸く處女となつた維新の元勳、碓井辰雄のたつた一人の忘れがたみであつた淑子は生れつきの學問好きで小學時代から課外には四書五經を素讀したり女學校に進んでからは、語學や洋樂も特に師をとつて深く修め、母が古風の躾に縫針庖厨の道にも熟達してあつぱれ上流の主婦として何不足もない程に磨き上げられた。二十歳前後の頃には名門の子息などからしきりに懇望せられたものであつたがいづれも斷つて故き父の遺愛の教育であつた。
善策を養子にむかへて、一年あまりは何足らぬふしもなく過してゐたが、先年流感で善策は去つた。生活の途丈は立つてゐたが、重る不幸に母子は身も世もなかつた。もとより智性すぐれた女性なので淑子は多年たしなんだ書道に一層心を入れて、最近ではもう已に一家をなして揮毫の依頼をうけることも隨分おほくなつた。小蘋とはその號である。しかし元から抜よりは頭腦の方がすぐれてゐる女史はなほそれで滿足はしないで思想の海をあさつて宗教や哲學の詮索に沒頭してゐる。今日翁をとうたのは近頃思ひ煩つてゐる。今後の方針について翁の教を乞ふためであつた。
「中川博士に比較宗教と歴史哲學の御講義を折々願つてをります。」
「大分御進境ぢや書道の方も大した評判ぢや、妙なものでな、貴女等が讃めらるゝのを聞くと我が事の樣に嬉しいぢや。父上が御在世なら喃！」
「御激勵ありがたうございます。ついこの程までは、これでも一廉得たり顏でをりましたが學ぶにつれてます〳〵足らはぬがちな我が身が恥られてなりません。それにこの頃はどうしたものか何から何まで

も疑はれ初めて、自身の立場にも深い危惧の念を抱きます樣な有樣どうかしてこの行詰つた生活をあらためて生氣のある境界に進みたいものだございますが。」

「ウム、もつともぢや、血をこそ流しはせぬが、まるで戰國時代でな、思想界の混亂は話の外ぢや。若い者が歸趨に迷ふのも無理からぬ事ぢや。たゞ迷ふてゐるよりはな、何でも身にかなふ事を一つでも爲て見るがよい。

貴女程の技量なら恐れる事はない。一つ乘り出して見られんが、愚老の出來る事なら何なりと御手傳ひしやう。」今でこそ野にかくれて平和な家庭生活に老後の餘命を養うてはゐるが嘗つては某省の大臣を務めた經驗もあり、翁の社會的勢力はなほあなどり難いものがある。翁が誠心よりのすゝめに小楨も少からず感激した。

「有難うございます。淑もその樣に考へてをります。もし出來ましたら少し遠出も致したいと考へます。」

「遊學か？」

「いゝえ、不肖ではございますが、今日まで學び得た處を以て少し働いて見たい考でございます。」

「何處へ行かれるとぢや。」

「支那でございます。」

「米國へとでもいはれるかと思ふたら、支那とは風變りぢや。どうぢやどういふ御心底からぢやな？」

「先生、淑が考へますには、世界の平和などゝいふことはいふべくしてまだ、なか〳〵行はれにくい事でございます。しかし國と國とが互に相爭ふといふ時代はとくに去つて、今は民族的鬪爭の時期に入つてゐると考へられます。この時にあたつて亞細亞に於ける私達同種同族の現在の有樣はどうでございませう。骨肉相食み、双肢相鬩ぐの狀態にあることは何といふ悲劇でせうか。せめて同文の隣國と丈けでも眞個に温い誠心で許しあい賴みあひ、共に〳〵手をとつて民族の爲めに盡し東亞細亞の一角に立派な

化を築き上げてこそ今日の白人のかたくなほ偏見を打破り四海同胞の神意も實現せられるのではないでせうか。政治も民間の有志もそれは心配して働いて居られる事は事實ですが、淑が考へますには男子のみに委せて婦人は知らぬふりをして居つてよいといふ事はなからうと存じます。淑は幸に幼少からあちらの學問をし、あちらの國の情趣をよく解してをります。亡き父に手ほどきをして貰ひました作詩や書道もこの頃ではどうにか一人まへになりましたから。これからあちらへ渡りまして、四百餘洲を遍歴して思の丈を詩に吟じ筆に走らせて、日華、兩國民の一致融合といふ事に力を致したいと存じます淑が今日の生活をつゞけてをりましても趣味に生きる身としての道具だてに何不足もなく閨秀書家としての身にあまる世の賞讃は亡き父の名を辱しめぬためには十分と存じます。けれども私も父の子でございます。今かういふ時勢にあたつてたゞ一身一家の事にばかり思をとゞめては居られないのでございます。

小蘋が熱誠のこもつた言葉に樂觀翁は眼をみはつて聞いてゐたが、

「ウム、流石は碓井の遺孤ぢや。よういはれた若うしてからにかしづく夫もない身ぢや!。志す處に進むがよからう。たゞわしが考へるのは御老母の事ぢや、世の常の婦人とちがつて別れ不覺もなからうがお互ひ老ひの身でなう早いはなしが明日をも知れぬのぢやから、若いものは察して遣らんことにはな…」

小　は痛い胸をえぐられたかの思ひでいつかうつむいてしまつた。この時折戸をあけてあでやかな貴子孃があらはれて、しづ〳〵と進んだ來た。

「あの母上がお待ちかねでございます。お二方ともパラーの方へどうぞ………」

ア、よし。よし今直きに行く。ぢやあ淑子さんその邊のことも慾くり考へませう。まあおちらで茶でも啜りませう……」

「ありがたうございます。」

三人は連れだつて主家の方へ行つた。あとには一陣の微風が通ふて、白秋のうねりがしきりであつた。

新婦人協會々報

會務部通信

支部消息

大阪支部

幹事　高安安子

六月二十九日當支部總務幹事關口冬子氏が御一身上の都合から退會なさいました。原田皐月氏は東上中御眞人の御病氣の爲まだ御歸阪なさいませんのでとにかく私から御通信する事に致しました。

七月九日午後一時から市民館に於て茶話會を開き會務について御相談致しました。民法講義を來る九月から公開的にしやうさいふ事にして今回で一まづ夏期休暇さいふ事に決義しました。午後三時から民法親族篇講義（入江新太郎氏講師）に移りました一時間半終つて各自質問を提出し詳細に講師は御答へ下さいました。閉催中池上市長が巡視に來られました私達は新婦人協會の仕事について御理解をいたゞくやうに御話しいたしました。

尙會計報告等は澁谷氏から。同氏からゝ御話する事になつて居ますが會費を幾月も拂はぬ先へ雜誌を御送りになり其上で退會となるとすゐぶんむだですから各支部へ幾部とかためて御送りになり各支部から會員へ送るやうにしたら如何です。

神戸支部

幹事　尾本激子

先月來石原氏が御病氣と家庭の御事情のために辭任を申出されてから、當支部の事情がたやすくそれをお容れする事が出來なかつた爲、今迄會務全般をお引受け下さつて居た同氏に對し、事務の分擔や條件の變更を計ることにして再三御留任をむ願ひしましたがどうしても御事情が御許しにならないので、遂に七月十三日組織變更の爲め臨時集會を開き次の事を決議致しました。

一、組織變更ノ件

幹事長、幹事ヲ廢シ左ノ如ク分擔ス。

會務部
- 會計係（金錢ノ出納ニ關スル事務一切）
- 外交係（外部トノ交渉及宣傳）
- 記錄係（通信、記錄）

事業部
- 研究部（改革ヲ要スベキ法律、社界問題等ノ研究並ニ實際運動）
- 女性互助部（婦人相談、婦人寄宿舍の計畫）
- 生産事業部（講演會、音樂會、學校設立、講習開始等ノ計畫）

會務部ノ係ハ各一名トシ重複ヲ避ケル事。

事業部ハ各部ニ主任一名ヲ置キ正會員ハ盡クソノ何レカヘ分任スルコト。

（右の決議に依り會務部の係は、會計菅井、外交石原、記錄尾本となり、事業部は缺席者の多かつた事と各部の事業が未だ具體的にまで行かない爲、ともかく事業部全般の主任として、山本、長野、鈴木の三氏を擧げ餘は次回に讓りました）

二、音樂會ノ議定

（早速資金募集のため菅井氏御眞人のお世話で八月上旬音樂會を催す議定にしました。）

三、會費ノ件

機關雜誌代三十錢ヲ除キタル當支部會員ノ會費ヲ全部支部ノ收入トセラレンコトヲ本部ニ願フコト。

（右の内第三項を改めて本部に御

承認をお願ひ致します。それから必然に起るべき支部規約の改訂も併せて御承認を願ひます。
尚御返事は神戸市大手後十七尾本宛に願上ます。

福山支部

幹事　阪口光子

度々の御通信ありがたく御禮申上げます本部皆様の一方ならぬ御盡力只々感謝致し居ります。
本日の印刷物中の事は今まで一寸も聞きませんでした。たとひ聞いたにせよ眞實とは思ひません、總會の模樣も大阪朝日及[illegible]朝で拜見して心強く思つて居りました。新婦人連の運動云々といふ事については當地の新聞でも數回見ました。然しその論點たるや私達の根本精神とは異なつてゐました。
只皮相的の誤解なので吾々の精神とは別物だと思ひました。
私は何時もこう云つてゐます。勿論新婦人協會の現今の事業の内には改正を要する點も澤山あるでせう。然し何にしろ兎に角その根本精神は明な者ですからこれからその眞實の實現に努力すべき者です一二不足の點があつたとてその根本精神まで無視する人はほんとに人類の向上國家の前途を思はぬ人です。

▲讀者紹介　福山市今町看護婦會
山路節子
御調郡三原東町
田邊イホコ

左に揭げるものは、福山支部で作られた宣傳用印刷物の轉載であります。

胸中に湧き上る新血の私語をお聞き下さい

「斷片。日記の中より」

福山市南尋常小學校　阪口光子

A、自己本心に生きよ

眞に生きんとする人、自己を偽らざる人は兎角問題を起す人、世人と衝突する人である。何故なれば利害の打算を除外して自己本心によつて動くからである。よい加減に妥協して置いたり、常識とやら言ふ智慧で圓めて置けば世人には持囃され、上手に世が渡られるものを。そんな事は眼中になく自分で正義と信じ眞理と判斷した事に向つて突進して行くからである。
吾人が正義と信じ眞理と判斷する事が或る場合果して正義に反し眞理に悖る事があるかも知れない。併し外界の如何なる誘惑も意とせず自己本心に生き、飽くまで赤裸々に正々堂々と貫き行かんとする大決心、眞信念の中には確に犯すべからざる眞理が含まれてゐる。そこには溢るゝ熱血が將又活躍せる新生命が強く烈しく且つ清く尊く流れてゐるから……。
私達は好んで世人と衝突するの必要はない。併し私には因襲や偶像の前に七重の膝を八重に折るだけの勇氣がない自己を偽つてまで世に持囃されよう(然し空虚な)とはしない。常に苦みながら闘ひながらも然し充實した、自己の本心に生きたい。然しこんな人は混濁してゐる社會には容れられぬであらう。至る所で衝突する。皆が忽ち寄つてたかつて危險思想だの、人に迷惑をかけるだの、或は非常識だのと罵倒し壓迫するであらう。併し私は天下泰平の死の都にねむるよりも矢張罪の都に生きて動いて見たい。炎々と燃えあがる内部生命を、押へても／＼湧き出づる胸の中の泉をどうして止める事が出來やう。オ、胸中に潛める泉の主よ私は汝のためにいつも苦しむ。私は或時は汝を限りなく憎んだ。自ら離れようとした。併し何時の間にかクッツイて了ふオ、主よ。矢張汝は私をホントに生かして吳れるのだ。私は汝のために眞に生きる事の出來る幸福を思ふ時微笑せずには居られない。

B、自己の經驗せし女性に對する信念の變動(内的衝突と外的衝突)

一、内的衝突

1、不平等差別主義時代(吾は女なりの前提にて)自四十三年至三年
2、平等無差別主義時代(吾は人なりの前提にて)自三年至六年
3、不平等差別主義時代(吾は人にして女性なりの前提にて)自六年

二、外的衝突

オ、最愛なる諸姉よ。諸姉の胸には今

如何なる熱血が、如何なる新生命が躍つて居ますか。

私は思ふ存分…心の底から語つて見たい併し私は敢へて默して居よう。語らうとすれば、說明しようとすれば私の拙劣な舌が、私の精練されないペンが私の眞底を其本眞劍を傷つけさうになつて來るのだもの……併し〳〵私の言葉が、私のペンが例令如何樣な形で現はれようとも、私自身は決してそんなものでない事を希くは信ぜられよ。若し雄辯家が居て、或は文筆家が居て私の奧底を語つて吳れたなら、おそらく宇宙の萬物が賛成して吳れる筈だとさえ思つてゐる。

C、自覺せよ世の婦女達

オヽ諸姉よ。國家を愛し人類を愛し生命を愛する貴女よ、未來を建設し創造す可き人類の半數たる婦女達よ。世の中は男性のみでも發展しない。互に協力團結以てその眞使命を果さればならぬ。併し現今の狀態では兩輪たる可き女性の車輪は餘りに萎縮し壓制されては居ないか。餘りに貧弱であり侮辱されては居ないか。從來の如き橫暴放縱なる男性、無自覺なる機械、人形の如き女性、これでどうして人類の理想に達し得られるか。私達は斯くの如き因襲の中に甘受する事は出來ない。即ち男性に對する反抗でなく、女權の擴張でなく、其眞使命を果すために人類最高の理想に進むために、從來の偏狹陋を除去せねばならぬ。聽て來る可き新時代は男性中心時代でもなく、女性中心の時代でもない。永らく因襲的に我儘に放縱に振まつた男性は自ら深く反省し、久しく機械であり奴隷であつた婦人は更に一段向上し、男女各自がその特性を發揮して健全なる國家を建設せねばならぬのである。しかし吾々婦人が從來の舊態を脫して眞の人として、女性として大使命を果すに至る迄には女性自身が餘程大なる決心と、鞏固なる信念と、眞面目なる修養とを以て自覺しなければならぬ。人に强ひられたる自覺、人眞似の自覺では熱が足りない。殊に現狀の如き過渡期に於いて然り。出る角は折られる。幾人かの犧牲者が現はれ、衝突しては倒れる。しかもさうして居る間に漸次改造されつゝあるのではあるまいか。

諸姉よ。諸姉の胸に湧ける淸い泉とその腕に躍る純眞なる新血とを永久に忘るゝ事なく、以つて吾人の大使命を果さうではないか。

私達の赤心をお聞き下さい

新婦人協會福山支部

女性は靈魂の教育者です。如何なる大偉人もその幼少慈母の懷に抱かれてやさしい子守歌を聞きながらねむる時、母の胎內で何も知らずに成長する時、既に其根本教育を受けてゐるのです。さうした個人々々が國運を支配するのです。あゝ私達婦人は大國民の教育者、國運の支配者です。どうしてうつかりして居られませう。自覺、向上、團結以て女性の大使命を果さねばなりません。私達の絕叫は世の評者の如く單に新しがりの女の擴張、單に男女平等と云ふやうな不眞面な輕卒な一時的の空騷ではありません、眞の女性として、眞の教育者として向上したいと叫ぶのです。

世の反對者へ

反對者の多くは新婦人協會の根本精神を曲解していらつしやる。例へば良妻賢母を傷つけるとか、女性として云々教育者として云々、あゝ私達はその無理解に驚かざるを得ません。皆樣はどうか根本精神をよく理解した上で批評して下さるやう願ひます。

女教師達へ

女教員問題もかなり大勢の人の口にせられて來ましたが、その不徹底さ加減、私は戰慄せざるを得ません、諸姉よ、その解決は當の本人自身です。貴女の胸には今如何なる血が、如何なる潮が湧いてゐますか。

一般の婦人へ

奧樣未來の小兒はどんな母を要求してゐ

るか御存じですか。血に燃ゆる若い姉妹よ。新時代に處して生く可く、どんな準備をしたらよいか御考になつていらつしやいますか。料理も裁縫もお琴もお花も必要です。しかしそれのみではあまりに貧弱でせう。時代はもつと〳〵根本信念の所有者を要求してゐます。奥樣、貴女は、女性同盟雜誌は母たる者には實際的でないとお考になつたかも知れません、しかしそれが實際的のものと御考になる時こそ、眞に女性を理解せられた時が來たのです。

男子の方へ

世の中は男性のみでも進歩しません。車の兩輪たる可き男女は共に補ぎ合つてこそ國家は榮ゆるのです。貴下は婦人が只貴下の意のまゝに機械的に盲從する事のみを以て滿足せられますか。それでは餘りに貧弱で傾りないとは思ひませんか。目下女達が目覺めんと警鐘を鳴してゐる事にお氣付きでせう。之を以て單に所謂つき新しがり屋が男性に對する反抗、社會的攪亂者と判斷なさいますか。公平にそして靜かに御考へ下さいませ。

當地方の皆樣へ

ヤツト小さい焔があがつたら暴風と大洪水とで消えさうでした。而し吹かれ〳〵流され〳〵た焔は益す底強く燃えてゐます。中には私達の根本精神を曲解してゐられる御方があるかもわかりません（〳〵一部分を捕へて或は語の端を提つて私達の全目的かのやうに）然し皆樣がさうだとは思ひません。必ず、貧弱な然し眞理に向つて進まふとする私を後援して下さる方がおありだと深く信じてゐます。

最後に皆樣へ

協會の機關雜誌「女性同盟」を紹介致します。まだお讀みになつていらつしやらない方は、御都合のつく限り一人でも多く讀んで下さい。直ちに會のために働いて下さいと云ふのではありません。内容を知つて頂きたいのです。

（毎月一回發行　一部三十錢　振替東京五〇九〇〇　新婦人協會又は當支部に申込んで下さい）

倘阪口光子氏は夏季休暇中左に滯在の出廣島縣神石郡仙養村

名古屋支部

幹事　山田とう

雜誌の發行が毎月遲延するのでまことに困ります、私は幹事として會員の方方から質問を發せられますと面目なくて返答に困ります、何とかなりませんでしようか、まことに失れいな云分ではありますが何卒會員達に惡感を持たせない樣にして下さい、會員募集上にも大いに影響を爲しますから………

正會員稻垣千代子女史は脫會されました然し今後は雜誌の購讀者となられました本部と支部との連らくと親善とを計る妙案をお考へ下さい、

市川女史の留別會を別送新聞紙上にある通り催しました、一夕を愉快に話しました、市川女史からは充分に世上に流布されて居る風評に就いての辯明がありましたから私共の疑念も晴れました、今後は私共が大いに確信を持つて社會に辯明するの位置に立ちますから何卒御安心下さい、

これからは支部としての希望も大に申上げますから本部からも支部に對しての御注意を願上げます。先は右御報告まで

□横濱にて講演會□

七月二十二日午後六時から横濱市開港記念會館で、横濱日日新聞社會學會主催にてわが協會の講演會がありました。雨天でしたが階上階下共に聽衆が溢れる程でした。

左の順序に從つて諸氏は熱心に雄辯をふるはれました。

順序

開會の辭　野方日日新聞社長

挨拶　積しな

婦人運動の三大基礎　山田わか
文化のともしび　佐々木伊都子
新婦人協會の主義と運動　奥むめお
感　想　市川房枝
新道德の樹立　山田美都子
閉會の辭　塚本仲子

何がさて、會館は新築の心地よさ、聽き手は滿員だし、順序よく運んで十時半塚本氏の閉會の辭と共に靜かに人人は散會しました，そして入口ではかれてから持參した女性同盟七月號を御分けいたしましたこれも案外多くさん賣れました。幾分でも反響があればと思ひます。横濱日日新聞社長野方氏初め大中氏其の他の方の非常なアッセンに對して感謝にたえませんでした。

□市川氏送別會□

——七月二十四日、花月園にて——

つるみ

雨がパラパラ降つたり、又やんだり、いやな天氣でした、花月園には入口に先着の塚本氏が萬事準備して下さつて、會場も、ごく靜かな奥の方の家で、いゝ所でした，萩にかこまれた坂をのぼると一軒家の田村庵といふのです、十二時頃たいがい見えて當の市川氏も、洋服姿で來られる、雨天なのや用事なのやで、約束してあつた方々も四五人缺席だつたけれど二十人程の人數で室が一つぱいになりました。めづらしい人や、初めての方も見えられました，積氏の挨拶があつてそれから、おすしや、おだんごや、お豆や、サイダーが運ばれて，お話はそれからそれとはづむ、雨がいよいよ本ぶりになつて山の一軒家の萩の家をすつかり降りこめて、かへつてカンカン照りつけるより氣持が落ちついて、みんなの、かくし藝や，十八番や，いろいろな催ほしが出はじめて、やうやうくつろいで來ました。市川氏にお土產をたのむ氣早な人も出て來るし、後からすぐ行きたいなど云ひ出したりまだみんなのおとくゐが全部出きらない内に市川氏は四時から他の送別會へ出席のため中座されました。そして一同で市川氏を中にして紀念の撮影をしました。御本人は歸られましたが、まだお別れするのは惜しい氣がして、後の人々は殘つて話しあふ事にしました、おせんべいを注文してお茶を入れかへて、いろいろ話しあい思ひがけない方々の、とつておきの藝を拜聽しました。こうした會合によつて個人の氣質も幾分づゝ知る事が出來てお互に、だんだん四角ばつた遠慮もとれると、どんなにいゝか知れないとつくづく思ひました。そして市川氏の送別會はこうして，相互を知りあふ機會にもなつて幸でした、愉快に過し、一同靜かに市川氏の御健康と御成功を祈り七時散會しました。そして再び市川氏をむかへる時を待ちませう。

六月の會計報告

□收入の部

收入總額	一〇七〇、六四
内譯	
會費	二一三、三八
寄附金	一四七、四〇
借入金	三六〇、八〇
前月越高	三四八、七六

□支出の部

支出總額	一〇七〇、六四
内譯	
俸給	一九五、——
事務所費（敷金も含む）	三五八、一〇
通信費	一四、二七
電車及車代	一八、四五
辨當代	二四、三七
臨時費	八一、四〇
消耗費	九、一一
返金及利子	二二三、——
出版部へ貸	一三二、八七
振替料金用紙代	一三、六七

出版部會計報告（六月分）

收入總額	二二二、八四
内譯	
雜誌代	一〇一、九五

書店より　三九、八九
廣告費　六〇、――
維持費　二一、――

支出總額　五二〇、三〇

内譯

發送費　一五、八〇
印刷費　四八〇、――
製本屋　二四、五〇

差引不足高　二九七、四六

維持會員加入者芳名

――六月一日より三十日迄――

島田爲野氏　（三口）
關口冬子氏　（三口）三ヶ月分　但五月より七月迄の分
積　しな氏　（一口）七ヶ月分　但七月より中ヶ年分
草郷仁子氏　（一口二ヶ月分）

□會費の領收□

（六月廿四日より七月卅一日迄の分）

二圓五十錢（勝本トメナ氏）三圓（德永チフ氏）一圓十一錢（宮川靜枝氏）（小口みち子氏）（松平さゝ氏）（藤尾敏子氏）（岩淵百合子氏）（金島政子氏）（厨川蝶子氏）（山田わか氏）（榊原彌生氏）（河崎なつ氏）（大山柳子氏）（永井柳太郎氏）（張しげ氏）（安田春氏）（高梨しげる氏）（岡田幸子氏）（名生ゆき氏）（三輪田元道氏）（金尾夏氏）（宇井たみ氏）（永井しづ氏）（増田義一氏）（羽仁もと氏）（秋田雨雀氏）（布施光氏）（吉田辰子氏）（沼田ふく氏）（岡田八千代氏）（上田なみ氏）（藤澤光氏）（帶刀泰子氏）（黒澤たま氏）（川口邦子氏）大庭景秋氏）（久保田次恵氏）（樋口綠子氏）（荒木いく氏）（平塚孝子氏）（猿渡千枝子氏）十圓十一錢（梅田きよ氏）十五圓十一錢（藤山きよ氏）五圓十一錢（平塚孝子氏）三圓十一錢（鈴木正不氏）（近藤晴子氏）五圓十一錢（椎名たま氏）（三圓十一錢（旭小百合氏）五圓十錢（中條節子氏）三圓十一錢（加治さき氏）二圓十一錢（加治時次郎氏）一圓十一錢（石原修氏）五十八錢（司城すな氏）一圓八錢（馬渡繁子氏）（生田花世氏）五十八錢（砥上宜子氏）（瀧本いく氏）一圓十一錢（鎌田榮吉氏）五十八錢（下川マサオ足）百瀬しづ氏）（石丸喜世氏）（平山信氏）（松野すが氏）（小槇茂代氏）（三ヶ島葭子氏）、片山仲子氏）（相馬貞井氏）（野村貢子氏）（上村つゆ氏）一圓十氏（杉美枝氏）（上河原ノブ氏）（宮方稲子氏）（島中雄作氏）一圓五十八錢（山田美都氏）二圓五十錢（淺野トミ氏）一圓八錢（川手作代氏）（福島靜子氏）（市川ふみ子氏）百五圓六十錢（大阪支部）一圓（大野忠三氏）五十八錢（岡本かの氏氏）（伊藤朝氏）（尹心德氏）（河瀬とし子氏）（西端さかえ氏）（北島しづ氏）（天谷スエ氏）（森岡採氏）一圓十一錢（突田稲太郎氏）（小泉ふみえ氏）一圓五十八錢（森奇美氏）一圓五十八錢、橋本美枝氏）一圓八錢（友名アイ氏）一圓五十八錢（矢野キミヲ氏）一圓（金尾夏氏）六圓（阪本勇吉氏）三圓（阪本眞琴氏）五十八錢（松崎フジ氏）一圓五十八錢（小野榮氏）五十八錢（平山文氏）五圓（石丸嘉久子氏）一圓十一錢（爲藤五郎氏）三圓・和田とみ氏　一圓（大野忠三氏）（吉村常寛氏）

寄附者氏名

（六月二十四日より七月三十日迄）

百圓（某氏）二圓（天野藤男氏）三十九圓二十錢（某氏）五圓八十錢（廣瀬氏）五圓　廣島N氏）五圓（生田花世氏）

新入會員

吉村常寛（麻布）　宮本幾美子（横濱）

協會日誌

（六月二十六日——七月三十日迄）

六月二十六日（日）休日

六月二十七日（月）平塚、矢部、田島、佐々木、出勤、矢部氏はこれから校正が出るので多忙がつて食事もそこ〳〵に出かけられる、大戸氏來訪され、雜誌經營の事など話す、帶封を書いたり、手紙の整理やで中々みな多忙．平塚氏も手紙の返事を書く。

夕方塚本氏來訪、手傳つて下さる。

六月二十八日（火）かねて理事會で決定された、會員相互の親睦會を七月三日にしたいといふので在京會員に、通知のハガキを刷る、暑いので田島氏も弱つて居られる、平塚氏出勤、手傳つて次回理事會の通知をも刷る、やつさかたつけて汗をぬぐふ頃、すつかり、夕ぐれて、窓から虫があかりを目がけては飛びこんで來るかんたんに夕食をすまして事務所を出たのは十時すぎ。

六月二十九日（水）相變らずみんなで帶封を書く、奥氏出勤執務、今日は永い間たのしんだ電話が架設された、これからどんなにたすかるか知れない、内外の便利を思ふとうれしい。番號は、銀座三九二二。

六月三十日（木）矢部、田島、稻垣の諸氏すでに出勤、それ〳〵仕事で忙しそうにだまりこんで居られる、佐々木お土產の花をさしかへて、なぐさめる、稻垣氏も集金の振替をせつせと書いて居られる、奥氏病氣の爲書店の集金を、田島、佐々木でやる。非常に暑い日で、ひかげを、よつて歩くけれど、たまらない。

七月一日（金）かねて橫濱の積氏よりの手紙によつて、同市開港紀念日に、協會の主義宣傳をやつてはといふので、今日から五日間の祭日との事に、協會から雜誌規約を千枚持つて佐々木橫濱にゆく、同地の會員大島かずえ氏さ積氏とで、橫濱公園に行き入口や、中で大いに宣傳書をまいた、誤〻でくれそうな人へは雜誌をあげたりして晝間と夜間に宣言書はたいがい、まいてしまつたので引あげた、これからも、かうゆふ宣傳も度々しておく考へである。

七月二日（土）むしあつい日、一同出勤して執務にたえられぬので、アイスクリームを食べに行つて來るさ、歸る頃はもう汗がダク〳〵で何のこさはない、アイスクリームがふいになつてゐる、それでも勇氣づけられて、仕事をつゞける、矢部氏も來られて、雜誌がまた原稿のおそいために、發行が遲れると心配される、相變らず平塚氏のがまだ全部送られてないし、その外會務報告もまだゞさいふので恐縮してしまふ、廣告のビラも刷り、新聞廣告もしやうと、一生けんめいに考へて居られる。

七月三日（日）午前十時から小石川の植物園で會員親睦會の日、さころが天氣が朝から非常にわるくて、雨が降つたりやんだりするので、天氣なら植物園雨天なら前假事務所の兒玉眞子氏宅さいふので自分達も、まよつた、午後一時頃からやう〳〵晴天になつた、植物園に十一時頃行くさ先着の伊藤、八田、袖山、の諸氏が待つて居られた、雨にぬれた四方の綠が美しい、子供づれでといふ案内なので各々可愛い人々をおつれになつた、一時頃から、ボツ〳〵平塚氏等も見えて、お池のそばへ行つて遊ぶ、十三人程の小集ではあつたが、大阪からのお客樣の呉田皐月氏が來られて、同氏をかこんで種々話しあり、寫眞を寫して散會した。

第一回の親睦會はこうして終つた、どうも、まだ〳〵出て來るといふのを、おつくうがつて居られるらしいので、此次はどうかして、多數で集り得る、然もたのしい自由な會といふ念をもつて考へたいと思つた。

七月四日（月）午後一時頃から事務所へ出かける、相變らず手紙がたくさん來てゐる、返事を書く、電話もかゝる。今日は一人だけなので淋しい、夕方平塚氏來ら

れつゞいて塚本氏も來られ、三人で夕食を濟ませて、ろ／＼これからの會の事についても話しあふ、涼しい風が夜の日比谷から吹いてくる、會計の整理や理事會の議事などについて相談する、九時が打つたのに驚いて三人で出かける、日比谷を通つて重い頭をすつかり回復した。
七月五日(火)田島氏獨りで出勤執務、雜誌が出來てくるさいふので、一生けんめいに準備をして居られる、毎月同じ事だが雜誌を送り出してホッとするさ、すぐごし／＼返本やら、不明やらで、返つてくる田島氏の机の上に山のやう、又愛讀者の人がその知友に紹介して下さるのやらでかなり繁雜なのである。矢部氏も來られて、いよ／＼雜誌が出來るのよ、今度はいゝの、わりあい、とさもうれしそう、その顏の滿足そうつたらない「よかつたのね」とやつぱり皆んなもうれしい
七月六日(水)午後一時頃から出勤執務、
七月七日(木)田島氏獨り出勤されて淋しく仕事される、佐々木神經痛で休む、
七月八日(金)佐々木出勤明日の理事會の事を順序だてる、奧氏出勤され、手紙の返事など書かれる。橫濱日々新聞記者大中氏來訪、協會後援のため婦人講演會を、日々新聞で骨折つてもいゝさ話される。
七月九日(土)佐々木神經痛のため晝間は休む田島氏出勤、矢部氏も來られる、兩氏とも午後六時からの理事會は、用事のため缺席、五時半頃から、奧、平塚、田中、塚本、積、山田、佐々木の諸氏出席し左記事項について協議々決す。

1、協會代表者を理事中より(規約)選ぶ。期限一ヶ年。

2、石原氏へ慰勞として紀念品贈呈の事、平塚、塚本、佐々木に委任。

3、特別會員の件(規約)

4、保證金の件諸氏に方法考究を委任

5、研究會を如何にするか諸種の講演會を傍聽する各工場等も視察する

6．會計狀態の報告及その救濟方法

　1、維持會員をつくる。

　2、寄附金をつのる。

7、理事會の日と時間、一ヶ月三度、五の日午後六時より。

8、田中孝子氏へ出席見舞をなす、平塚氏に委任。

9、講演會．橫濱に於て、積氏に委任

10、市川氏の送別會の件。

　決定　會場　花月園

　　會費　一圓

　七月廿四日午前十時より

　右準備を塚本氏に委任

11　原稿料の件。

七月十日(日)休日
七月十一日(月)雜誌發送の日、田島氏早々出勤され山の如く重ねられた雜誌の中に一生けんめいで働いて居られる、佐々木おくればせに手傳ひ約半分發送する。午後二時頃會員久保田たけ子氏來訪、名古屋より故鄕八王子へ二三日前に歸鄕された由語らる、婦人はたらき協會天野氏に紹介する。
七月十二日(火)つゞいて發送、塚本氏の知人、よく手傳つて下される、俥で中央局へ運んで下さる。暑い事今日もかなりにはげしい。
七月十三日(水)まだ／＼殘りの發送を今日もやらねばならぬ、
七月十四日(木)田島氏は休まれる、どんなにつかれられたかさつく／＼思ひやられる、病まねばいゝさ祈る、夕方佐々木一人で執務してゐる所へ塚本氏來られ、つれだつて夕方の日比谷を散步する、そして、會の事について語りあふ、さしづめ協會借金の事について、何とかしたいために、同氏の休みを利用して、來る十五日から十七日迄三日間寄附金をつのらうといふ事を相談する、明日午前十時を約して分れる。
七月十五日(金)朝から好天氣。暑さが思いやられる程である、午前十時から平塚氏を待つ。丁度會員に送るべき會員版を附した雜誌が出來てくる、塚本氏にも願つて二人で發送にかゝる、午後二時頃迄

に發送の準備を終へたが平塚氏は見えられない、遂に電話で病氣不參をことわつて來る、夕方發送を終へる。大戸印刷所から中元の美しいうちわを贈られる。

理事會、夕方六時から左の事項の協議、

1、佐田氏主催七月廿日市川氏の送別茶話會、快諾。

2、財團法人 なほ研究、近き將來に於て實現すべく努力する事、

出席者、山田、伊藤、塚本、佐々木、積の諸氏、

七月十六日(土)塚本氏はつかれた顔も見せず約束の時間に事務所に來られる、平塚氏を待つたが見えない、横濱講演の事も出演者を早く横濱へ知らせたいので、病氣見舞方々塚本氏はすぐ田端の平塚氏方へ行かれる、佐々木、發送後の整理や手紙の返事をかく、

横濱日々新聞大中氏から電話で準備について問ひ合せてくる。

午後五時頃塚本氏田端から歸られ、二人して、銀座に石原氏へ贈呈の紀念品を買ひに行く。そして送るばかりにして持つてくる、

七月十七日(日)雨天なれど塚本氏をたのみ、佐々木さ、有島氏へ講演を依賴に行く不在事務所で各支部へ雜誌を發送す。

七月十八日(月)田島、奥、出勤、執務、佐々木氏、缺勤、奥氏、山田わか氏へ講演の依賴に行き承諾を得。

七月十九日(火)大體承諾を得た出演者を横濱に知らせる、積氏からは、度々電話や速達を下さる、出演者、山田わか氏、市川房枝氏、草郷仁子氏、山田美都氏、奥むめお氏、平塚明氏、佐々木氏在京會員へ全部、廿四日のつるみに於ける市川氏送別會の案内と、廿二日横濱講演會の案内を刷つて出す。

七月二十日(水)午後六時から佐田氏宅の協會役員一同と市川氏招待會、愉快に談笑し、市川氏の無邪氣な追懷談に腹をかゝへさせ、夜の更くるも知らず語り、市川氏のために健康を願ひつゝ散會す。

七月二十一日(木)積氏來訪、平塚氏と事務所で明日の講演會の事で打ち合せをする、手紙の返事など書く。佐々木氏病氣で休む。神戸支部幹事尾本憲子姉來訪される折あしく皆、講演會のため走りあきで留守で御氣の毒をした、同姉は夏季講習のため御上京二十九日迄御滯在の由。

七月二十二日(金)奥、田島、矢部、の諸氏出勤執務で多忙。夜の講演會の爲に早く歸る。

この朝早く塚本氏は、横濱日々新聞を訪問して社長野方氏に面會いろ／＼協議し積氏とも打合せする。いよ／＼六時開會別項の樣に開會で十時半散會した。度々これからもこの種の婦人のみの講演會をしたいと思ふ。

七月二十三日(土)佐々木出勤、今日は一人つきりで淋しい。わりあい涼しいので仕事がはかどる。たまつてゐた事務をかたつけて、積氏を初め方々へ禮狀など書く。

七月二十四日(日)市川氏の送別會の日、折あしく雨天で殘念だつた、それでも夕方七時頃迄遊んで送別會としてはあんまり、しんみりしなくてかへつてよかつたと思つた。たゞ殘念だつたのは丁度前日から御病氣だつた平塚氏と奥氏が今日もわるくて、とう／＼缺席だつた。市川氏を中に紀念の撮影をして散會した。

七月二十五日(月)午後三時から市川氏宅へ理事と內部のものが招かれる、田島、佐々木午前中執務、平塚氏を誘ふべく田端へ行く。平塚氏まだわるくて外出出來ぬので獨りで市川氏方へ行く、奥、田島後藤の諸氏先着愉快に語りあい、御馳走になつてかへる、夜塚本氏平塚氏方へ行かれる、

七月二十六日(火)佐々木出勤執務、尾本憲子姉招待會のいろ／＼打ち合せ等もしたくその準備のため、午後から八田菅江氏方へ行く八田氏の宅を拜借する事を快諾下さるすぐ尾本姉に電話で打合せる。同氏の承諾を得てすぐ理事、內部の人々へ七月二十七日午後一時より尾本姉招待

會を八田氏宅にて催ほす旨速達通知を出す。種々打合せて、午後八時おいとまする。

七月二十七日(水)午後一時八田氏方へ行く、奥、伊藤、尾本の諸姉すでに出席されお話なして居られた、これから八田氏の御馳走をいたゞきながら、支部の報告や個人の消息や、今後の方針等、熱心な尾本姉を通して何ひ非常に得る所があつた。そしてもつと〳〵よく連絡をとつて行きたいと感じさせられた、なほかつて提案された支部幹事有給案を具體的に相談して下さる樣願つておく。神戸でもやつぱり非常な奮闘努力の樣に伺つて幹事諸氏の勞を感謝した。遲れて平塚、塚本の二氏も來り會し、いろ〳〵打合せ、愉快に話した。

七月二十八日(木)田島氏缺勤、佐々木出勤、會務報告をまとめる、手紙の整理其の他で多忙、午後二時田端平塚氏方へ行く。それから市川氏に諸方より送られた餞別の金を持參同氏に屆けてホツト安心する。

七月二十九日(金)市川氏いよ〳〵渡米の日、さすがにしばらく今日からお別れとなると新らしくそれをはつきり意識して淋しい。横濱埠頭に着いた時、その乘船鹿島丸の甲板上に市川氏の姿を見つけた時、何かしら胸が一ぱついになつた、會員の人や知人の誰彼が來て居られた、新聞社の寫眞班がカメラに一同を入れたのが最後だつた。正三時に鹿島は出帆の笛をならした、無言の禮や、快活な詞やにそれ〳〵別れをつげて、見送り人は一同船から下りた、そして幾すじもの紙が手から船へと渡されて、異狀なキンチョー味を現はした、そして船が動き出すさめい〳〵の持つ色紙が長く〳〵する〳〵さとけて、市川氏の白い洋服すがたが、淋しげに甲板に遠ざかつて行く、そしてあらかた紙がつきて一度にはなされた時、たまらなく淋しかつた、市川氏もきつと涙を流して無量の感じに胸がいつぱいたつたろうと思ふ。

こうして市川氏は米國へ〳〵と進みつゝあるのだ、はるかに氏の健康を祈るばかりである。そして一路平安をみんなの胸が祈つたに違ひはない。

かへりに、日々新聞の社長と大中氏に面會、先日の御禮をのべた。

七月三十日(土)明治天皇祭で休み、塚本氏來訪され平塚氏と共に二三軒を來訪して金の心配をして下さる。佐々木、矢部氏と共に、大戸印刷所に行き、八月號の校正をする。奥、集會に廻る。

七月三十一日(日)休日だけれども、矢部氏校正で大多忙獨りでするのは、たしかに無理だとつく〳〵思はせられた。佐々木會務通信がすつかりまとまらぬ爲に家でする。矢部氏の獨りで校正をしてゐる事を思ふと、氣の毒でならない塚本佐々木、兩氏は今日も訪問の爲め多忙の筈。

□御報告□

市川房枝姉の渡米に際して各地の會員の方からいろ〳〵お手厚い御送別を頂きまして感謝いたします。その内現金にて御送り下さいました分は協會の方にて纏めて金參百圓也さして、同姉に差上げることが出來ましたから左樣お含み下さいまし。内譯すれば左の通りになります。

二十圓(大阪支部)十圓(菓鄉仁子氏、阪本勇吉氏及眞琴氏)五圓(山田美津子氏、阪口光子氏、平塚明氏)三圓五十一錢(片岡皋月氏)三圓(田中芳子氏、平松新次氏、積しな氏、八田營江氏、塚本仲氏)二圓(吉田辰子氏、淺井りい氏、佐々木伊都子氏。奥むめお氏、矢部初子氏、田島秀氏)一圓(伊藤朝子氏、櫟以登子氏、福岡什子氏、大野忠三氏)

協會所屬會員名簿（續）

□大阪支部

維持員

原田潤　大阪市外寶塚
床次正廣　府下住吉常盤樹園内

正會員

安田香　中河内郡布施村長堂
湯本愛　府下小阪
三木つる子　豊能郡豊中
山本好乃　城東村字鴫野鐘紡大阪支店
北島まさ江　市内南區育英女子高等小學校
山田次惠　東成郡住吉村大帝塚學院通高田町
稻村むめ　東區寺山町四九一、渡邊氏方
藤井あい　東區玉造町四二
宮地功子　西區九條南通三丁目一五七
林貞子　南區天王寺堂ヶ芝町五六二〇
吉田壽　堺市市之町大通
谷田元江　西成郡豊崎町梅花女學校
河部靜子　北區天滿橋筋町一ノ九九キリスト教女子青年會
清瀬しな　市外芦屋
進本イシ　北區南冶人町二、四五六ノ三六
山本秀子　東區清水谷東町四二
小林花子　東區内平野町二ノ三〇
井上萩子　南區久左衛門町十三
長山貞　東區南大江尋常小學校
中村つる　東區糸屋町二ノ四
山田芳枝　府下住吉粉濱三三
西堂菊枝　北區絹笠町回生病院内
西川香鶴子　東成郡鶴橋町東小橋十八ノ二西哲城氏方
内藤周子　府下天下茶屋聖天阪
永易富美子　市内北區西野田江成町
鈴木千里　府下天下茶屋本通三丁目
太田花子　北區高島町大阪商船會社文書課
長谷川純　南區竹屋町入
森藤藤江　市外天下茶屋月夜小路四八四土岐方
進藤節子　北區梅田町三五〇
久保田幸子　西區築港六條通一ノ一
長野すが代　區西野田江成町三一六
池田閑子　西區九條通一町目八〇
黒住雅子　市外寶塚
原田皐月　府下東成郡城北村毛馬正新木宅前
中野八千代　大阪市外寶塚
島津壽賀子　府下西成郡粉濱村二一九
原田龍　市内西區北堀江二ノ一、橋本氏方
名越梅乃　市外東成郡北百濟村字桑津二七七
光石米野

小川ますえ　南區天王寺生玉前町五二一四白井梅吉氏方
前原郁子　市外佃椿ヶ丘五五
植田重子　府下西成郡玉出町一〇四五
吉田美代　北區天神橋筋五丁目郵便局隣り
路川健介　南區天王寺勝山通二ノ五八九〇
恩田和子　中の島大阪朝日新聞社
赤松吉雄　市内西區川口大阪萬朝報社
川守千枝子　東區京橋二の二九
高田愼吾　南區天王寺鈴人町大原社會問題研究所
高田不二子　同　上
川勝蔵太　北區西梅ヶ枝町八五一大阪新聞社
倉迫梅男　市内北區西梅ヶ枝町八五一大阪新聞社
齋藤吊花　大阪北濱關西日報社内
寺尾みれ　市内東區瓦町四ノ六
原井鈴子　東區材木町十一ノ二
坪井義子　東區横堀四ノ二三、屋敷
酒井敏祐　北區葉村町一一〇五日光社内
大月龜吉　南區天王寺勝山通一丁目植木山芳尾氏方
四方田柳子　府下箕面村
木嶋貞子　北區金尾町一ノ十四

第一種賛助員

水野和一　府下濱寺諏訪の森
小野千代子　府下大枚町關西婦人新報社
近藤化枝　西區土佐堀裏町十七讀賣新聞支局
吉田郁代　東區博勞町五ノ十五
佐藤富子　東區大手通り一ノ十九
寺田アサ子　府下豊能郡豊中新市街
内田美子　市外神津村木川四〇一ノ二
門野篤子　府下豊能郡北豊島村
橋川優子　同　上
高安やす子　東區道修町四
添島邦子　東區小田町一五五、七二、吉武米氏方
澁谷浪子　東區内淡路町一丁目十二

第一種賛助員

實　幸齋　府下西成郡中津町下三番二五七
矢澤孝子　北區西野田玉川

□神戸支部

正會員

池田藤子　神戸市三ノ宮町二丁目三三二
山本清子　兵庫縣武庫郡今津下告九九五
佐々木いとの　市内松原通五丁目十番地一一六
長野まつ　市内大井通附屬荷松病院内吉井マサ氏方
脇坂幸子　兵庫縣明石郡垂水村字天元
山本花子　兵庫縣武庫郡芦屋
櫟　以登子　兵庫縣津名郡廣石村持明寺内
松永妙子　市内北長狭通九丁目五〇ノ一
馬淵靜子　兵庫縣明石市細工町

鈴木トミ　兵庫縣田宮通り四丁目三七ノ二西島氏方
小川種子　神戸石井町由之町一丁目六一
和久山幾子　神戸荊沙通一丁目十九
富田ワサ　兵庫縣武庫郡住吉村八甲田吉一四條氏方
石原良子　市内千島町二丁目三十二
長谷川初音　市内熊内通り四、雲内教會
末松短子　兵庫縣武庫郡今津村今津字東通北一五九三
大原なつ　市内元町三丁目二十二
清水フジ　市内平野神田町一八八ノ一
戸谷靜江　神戸市兵庫五番町一ノ四
摩尼サミ　市内山本通四丁目一一六ノ一
石原梶子　市内千島町二丁目三六
岱本政子　兵庫縣武庫郡魚崎町川西海岸太田氏方
石原利子　市内須磨町大手一ノ十三勝福將阪下
竹吉さき子　市内兵庫五番町一ノ五一
長谷川すみ枝　市内石井町二丁目一四二
三明規代子　兵庫縣三原郡市枝
賀川春子　市内葺合北本町六ノ二二〇
藤善みどり　市内都由乃町一丁目六一
山本うめ　市内二宮町三丁目一二車川方
安東政子　市内加納町四丁目四七ノ一
西本すみ　市内山本通三丁目七ノ五
尾本和榮　市内大手後十七
廣間ひで　市内兵庫松本通四丁目二四ノ四
尾本窓子　市内大手後十七
城のぶ　市内葺合宮本通二丁目
瀬川光子　神戸市内楠通五町目二十九
西島しげ　神戸市兵庫和田宮通四町目三七ノ二
亀田すゑ　市内南本町三町目八
鈴木はま　市内平野湊山町三八五海員ホーム内
中井三枝　市内山本通四町目一〇一ノ二一
山本清子　市内須磨町大手二二ノ七
門屋あさ　兵庫縣魚崎町西下三反田
民部喜久子　市内千島町二ノ十七

第一種贊助員

大川周子　市内大手町字米田寺一
駿井駿子　兵庫縣武庫郡御影町郡家二一〇地
高田詩奈子　兵庫縣印南郡西神吉村清水

福岡北子　兵庫縣加古郡加古川町内加古川町

第二種贊助員

谷本昶子　兵庫縣芦屋
渡邊常子　市内山手通七丁目七四
谷本富　維持員　兵庫縣蘆屋

□名古屋支部

森田歌子　名古屋市東區武平町
角田重子　同　西區北鷹匠町

第一種贊助員

山田とう　同　西區本町二新愛知新聞社

第二種贊助員

小林橋川　同　名古屋新聞社内
磯部貞子　同　東區中本重町六丁目
後藤化子　同　東區鶴舞公園東
瀬木せき子　同　中區門前町
陸田鉦子　同　西區園井町五三

正會員

近藤敏子　熱田紺屋町下屋敷
牛塚きり子　同　新田東畑割
北村鈴重　名古屋市第二高等小學校
松永靜代　同　西區馬喰町
小田切ふく　同　中區天王崎九六
佐分すゞ子　同　市外愛知町
高田ひさ子　同　西區泥町三ノ三

□福山支部

正會員

阪口光子　福山御門町
關久子　同　西町裏之町
島純子　同　明治町

第二種贊助員

荒川五郎　廣島市祇園

輯編だより

▼七月號に對して會員の方から寄せられた數々の褒詞忠言を感謝します。編輯に慣れませんため校正の誤まりなども澤山ありましたが今後は精々注意いたしますこの上とも御奬勵と御助言とに預りたいものです。

▼八月號は時も時でありますから、少しアッサリと作つて見ました。感想號さいつたものにしたかつたのですが、それほどにも參りませんでした。質疑には議論とは違つた味のあるもので、月々二三は載せたいと思つてゐます。どなたでも隨時にお寄せ下さい。

▼最近米國から歸つた人に逢つての話ですが米國では、婦人參政權運動に成功してから、婦人問題は性の研究といつた方面に變りつゝあるさうです。その人は申しました「ワシントンのナショナルコングレスライブラリーへ行くさ、婦人參政權運動の猛烈な運動振りの寫眞がずつと出てゐるが、あちらでもあれだけにしなければ得られなかつたのかと思ふと、日本の婦人運動者もよつぽどしつかりしなくちやいけませんね」またこんな事も申しました「米國の中學ぢや女百人に男七十人位ゐといふ有樣で男は職業を得るため女のやうに學校へ出てゐられなくなつてゐる。家庭に於て女が男の上にあるさ云のも當然と思ひました。家庭が圓滿に行けばあれも面白いぢや有ませんか」さ

▼七月に起つた事では軍備制限及び太平洋會議問題と神戸の勞働爭議問題でありませう。兩方とも、心ある人には何事かの前兆を感じさせるやうな騷として其の成行きを凝視せずにゐられぬ問題です。

▼土用に入つて以來東京はすつかり雨模樣の日ばかりつゞいて、盛夏に梅雨が來たやうです。八月にはまた暑さがもり返される事と思ひ、私はあまり丈夫でもない胃腸を氣にしてゐるのでございますが會員の方々も一人もかけず初秋を迎へて下さるやうにさ、人ごとならずお祈りいたしてゐます。

▼九月號はうんと內容をはちきれるほど盛りたいさ思つて、略成案も立つてゐます。本月十五日までに編者を喜ばせる名篇をどし／＼お寄稿下さい。（はつ）

定價表

一部 金三十錢（郵稅五厘）
半ヶ年 金一圓七十錢（郵稅共）
一ヶ年 金三圓三十錢（郵稅共）

廣告料

特等 一頁 五十圓
一等 一頁 四十圓
二等 一頁 三十圓
半頁 二十圓
四回以上割引あり

注意

▼御注文は總て前金で願ひます。
▼御送金は振替に御拂込み下さい。
▼郵券代用の際は一割增の事。（五厘切手にて）
▼誌代の領收書は雜誌發送を以つてかへます。
御入用の方は端書封入下さい。

大正十年七月卅日納本
大正十年八月一日發行（第十一號）
編輯兼發行印刷人　奥　むめお
東京市麴町區內幸町一ノ六
發行所　新婦人協會
電話銀座三九二二番
振替東京五〇九〇〇番

賣捌所　東京堂　東海堂　北隆館　上田屋　至誠堂　其他全國各書店にあり

暑中御伺

新婦人協會
理事一同
同
會務部一同
女性同盟
編輯部一同

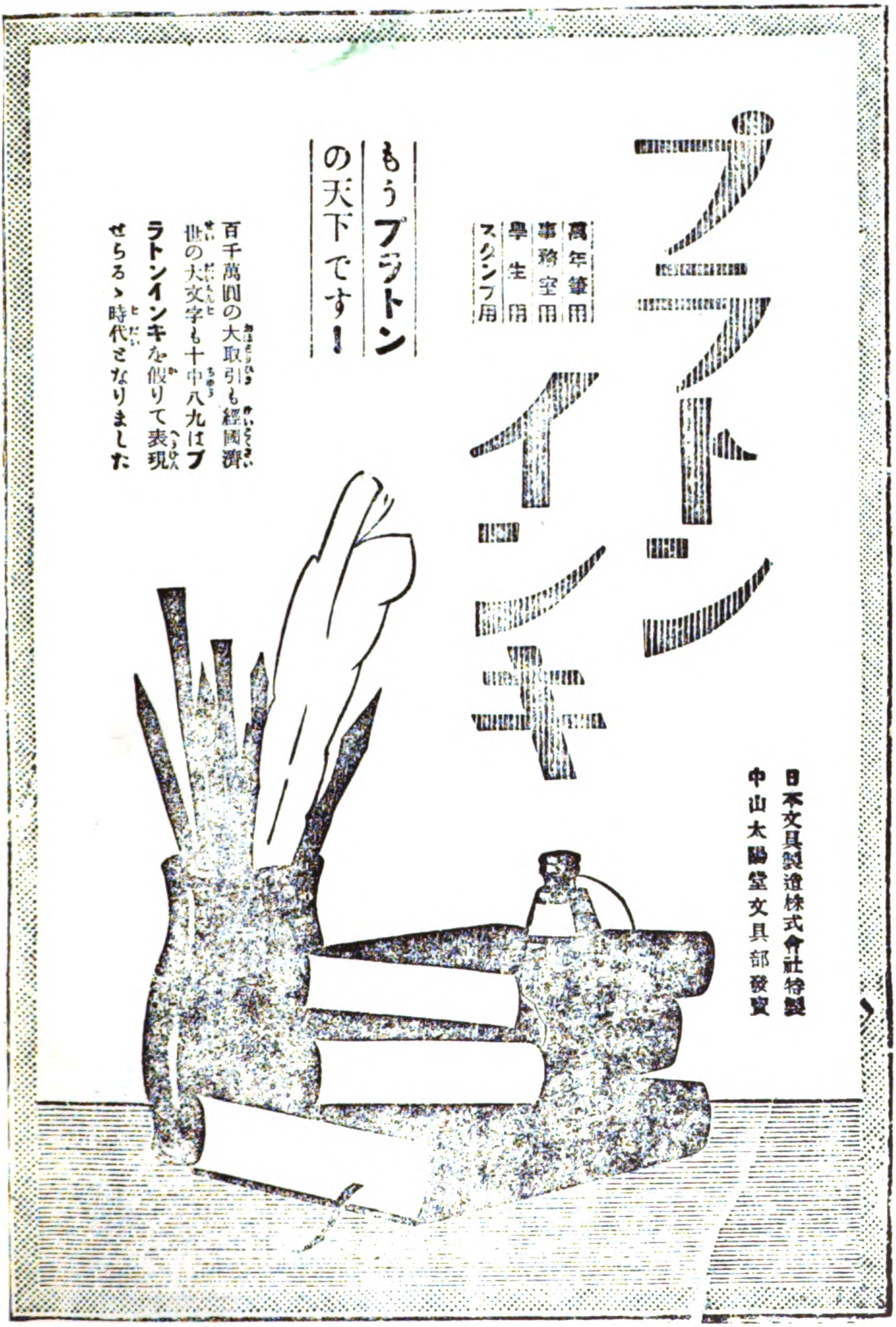
原稿募集

論文　十五枚（四百字詰）
時事批判　長短隨意
小說　二十枚（四百字詰）
感想文その他飜譯等
締切每月十日
尙雜誌の內容や形式に就てごしごし御批評を願ひます

編輯部


マツダランプ
改善研究費として
投下せる金額
既往累計三百除萬圓
現在年額三十萬圓

大正十年七月廿一日印刷納本
大正十年八月一日發行
女性同盟八月號
(大正九年十月一日第三種郵便物認可)



定價(一部)參拾錢(郵税五厘)
發行所 東京市麹町區内幸町一ノ六 新婦人協會